

## 『日本海新聞』学童集団疎開関係記事

石田敏紀<sup>1</sup>

*Nihonkai Shimbun's articles related to the Group Evacuations of Schoolchildren*

Toshinori ISHIDA<sup>1</sup>

昭和一九年（一九四四）八月四日、東京都の国民学校学童が集団疎開したのを最初に、大阪・横浜などの主要都市、約四一万一千人の国民学校三年から六年の子どもたちが集団疎開を行った。鳥取県も同年九月以降、兵庫県の国民学校の集団疎開を受け入れた。

鳥取県への集団疎開については、兵庫県側では『兵庫県教育史』、『神戸市教育史』や市町村史誌で疎開に到るまでの経緯、行政の対応などがまとめられ、各学校の記念誌や回想録などで疎開中の生活の様子も紹介されている。鳥取県側でも『鳥取県史』や受入先となった地域の市町村史誌などで、戦時下の様子を伝えるエピソードの一つとして紹介されている。

しかし、関係する公文書のほとんどは破棄されており、疎開先の選定の経緯や疎開側、受入側それぞれの対応を伝えるまとまった記録としては鳥取県、神戸市それぞれの地元紙の『日本海新聞』、『神戸新聞』があるのみである。両紙の学童集団疎開関係記事は、拙稿「鳥取県内への学童集団疎開」〔『鳥取県立博物館研究報告』第三九号、二〇〇二年〕で巻末資料として見出しと概要を紹介したが、『神戸新聞』の内容については二〇一一年に甲南大学人間科学研究科刊行の『兵庫県学童疎開関係史料集成』（第一輯『神戸新聞』

篇）によつて全文翻刻された。

本稿は、今年（二〇一四年）が学童集団疎開実施七〇年となること、並びに甲南大学の史料集成刊行のように、近年学童集団疎開についての調査が進められていることを受け、今後の研究活動に資するため、『日本海新聞』の学童集団疎開関係記事を翻刻・紹介するものである。本資料にあらわれる鳥取県側の対応と『神戸新聞』の報じた疎開側の動きとを合わせてみることによつて、総力戦体制下における集団疎開の実態が一層明らかとなるものと思う。

<sup>1</sup> 鳥取県立博物館 〒680-0011 鳥取市東町 2-124  
Tottori Prefectural Museum, Higashi-machi 2-124, Tottori, 680-0011 Japan  
E-mail: isidat@pref.tottori.jp  
[受領 Received 30 November 2013 / 受理 Accepted 28 January 2014]

## 凡例

一 本稿は、『日本海新聞』に初めて学童集団疎開の実施が報道された一九四四年（昭和一九）七月九日から鳥取県からの集団疎開の引き揚げ完了を伝える昭和二〇年一〇月二十九日までの間、同紙に掲載された学童疎開関係記事を収めた。この間の紙面は現在（二〇一四年二月二十八日）、鳥取県立図書館が左記を除き所蔵し、マイクロフィルムでの閲覧が可能である。また、昭和二〇年八月一日の紙面は鳥取県立公文書館が、同月一日は米子市立山陰歴史館が所蔵している。

## 〈昭和一九年〉

（九月）九、一八、二三、二九日、（一〇月）七、一〇、一二、一三日、（二二月）一、二、一七、二二、二三、二四、二八日

## 〈昭和二〇年〉

（一月～四月）全て欠、（五月）二、三、八、九、一〇、一四、二〇日、（六月）二二、二四日、（七月）一、二日、（八月）一、二、一五、一六、二二日、（九月）一、二七、一九、二三日、（一〇月）二、二二、一七、二三、二五日、（二二月）二三、二四、三〇日、（二二月）七、三〇日

一 史料は編年により収め、通し番号を付したうえ、その内容を示す標題をしるした。

一 標記は原則として次のように統一した。

・ 使用字体は常用漢字とし、異体字・俗字・略字などはそれぞれ正字に改めた。ただし、正字になおすとかえって難解になるものなどは、そのままにしたものもある。

・ 文字の摩滅などによって判読できないものは、その字数を推定して□□□で示した。

・ 執筆者の推定に関する傍注、誤脱の訂正に関する傍注には（ ）を用いた。

・ 文意の通じない箇所、活字が回転して印字されている箇所は（ママ）、補注するも疑問の出る場合には（〇〇カ）と傍注した。

・ 記事の体裁は、原文を尊重するが、ある程度の統一を加えた。

・ 句読点・並列点は、原文を尊重しつつ適宜整えた。

・ その他、史料の翻刻は慣用にしたがった。

一 記事中の写真はキャプションのみをしるし、すべて省略した。

一 本稿には、現在からみて人権を侵害すると解釈される字句も含まれるが、史料に基づいて歴史的事実を正確に把握するため、一部の個人名を伏字（\*）で表した以外は、原文のまま翻刻した。

一 新聞史料は基本的には取材に基づく二次史料であり、正確さに欠けたり、誤りを含む場合がある。引用等その使用については、他の史料以上に十分注意を払っていただきたい。

一 本稿の編集は、鳥取県立図書館所蔵のマイクロフィルムをもとに、石田敏紀が行い、佐々木美佳、矢野麻衣が補佐した。

## 一 学童疎開の方針近く発表

一九四四年（昭和一九）年七月九日（1画）

自発的縁故先へ

三年以上六年までの学童を勸奨疎開

空襲必至の情勢下、帝都その他重要都市の防衛態勢強化とともに次代国民確保のため、政府は学童の疎開に關し考究中であつたが、この程根本方針を決定、目下その具体方策につき準備中でいよいよ近く実施することとなつた、しかして学童疎開はあくまで勸奨によつて縁故先を第一とし、縁故先の無い学童については集団疎開をもする方針で、対象となる学童は国民学校初等科三年以上六年までの者とする予定であるが、その具体的方策細目については、可及的速に立案を発表のうへ実行に移るはずで、右に關し情報局では、八日左の如く発表、政府の方針を明かにした

**情報局発表** 帝都その地重要都市の学童疎開に關しては、政府においてすでに根本方針を決定し、目下これが具体方策について鋭意準備を進めてをり、近く実施を見る運びになつてゐる、学童の疎開は、近般の人員疎開と同様あくまでも強制をさけ勸奨によることとし、しかも縁故疎開を極力勸奨するのであるが、<sup>（通）</sup>□<sub>□</sub>当な縁故先のない学童については、保護者の申請により学校当事者の適切なる管制の下に計画的に集団疎開を実施する方針である、集団疎開せしむべき学童は、国民学校初等科三年以上六年までの者を予定し、疎開先はあまり遠隔の地をさけ、なるべく家庭との交通連絡に便利な土地を推薦したいと考へてゐる、疎開先へは現在校の教員が<sub>□</sub>ついて行き教育の継続は勿論食食用具など万端の世話をする<sub>□</sub>ことになるが、疎開先においても食糧その他の必需物資の調達をはじめ各種の面倒を見<sub>□</sub>てもらふ<sub>□</sub>ことにしてゐる、近くこれが細目を発表する見込みであるから、保護者をはじめ関係各位は現下の<sub>□</sub>空の<sub>□</sub>相に徹し、政府の施策をよく理解して冷靜な心構へと準備とを進めてほしい

## 二 「学童疎開促進要綱」を発表

一九四四年（昭和一九）七月一日（1画）

費用八割方を政府持

学童疎開促進要綱決る

空襲必至の現状にかんがみ、政府は去月三十日、閣議において学童疎開根本方針を決定、引つづき集団そ開の対象となる学童の範囲、そ開先宿舍、教育など具体的実施策につき講究を進めた結果、成案を得たので、十七日午後二時情報局より学童そ開促進要綱、帝都学童集団疎開実施要綱を発表した、今回明らか<sub>□</sub>にされた具体的実施方策のうち主なる点、左のごとし

- 一、実施地域—東京都を皮切りに横浜、川崎、横須賀、大阪、神戸、あまヶ崎、名古屋、門司、小倉、戸畑、若松および八幡の十三都市の予定、対象学童数は東京都第一期約二十万その他の諸都市合計四十万人に上るものと見られる
- 一、そ開先—そ開すべき都市の都市近接県を選定、東京都では東京都都部、千葉、さい玉、いばら城、栃木、群馬、福島、宮城、山形、静岡、山梨、長野、新潟の各県が予定されている
- 一、経費の負担—集団そ開の国家的意義にかんがみ、児童生活費の一部として一人月額十円を保護者の負担するほかは一切そ開区域たる都府県市で負担し、国庫はこれに八割の補助を行ふ

なほ、そ開先における児童用生活必需物資の配給については、関係当局間に特別の措置を講じて萬遺漏なきを期するとともに、そ開学童の輸送についても臨時列車の特発、車輛指定などを行ひ、実施の円滑を期する方針である

## 三 鳥取県の受入方針

一九四四年（昭和一九）七月一九日（3画）

学童受入れに万全

寺院、別荘等を宿舍に

長期戦に備へる不<sub>□</sub>退<sub>□</sub>転<sub>□</sub>の構へと国土の戦闘配置を急速に実現するため学童の集団疎開実施要領が十七日発表され家族疎開、縁故疎開の出来ない学童で京浜、名古屋、阪神、北九州地区の国民学校初等科三年から六年までの児童を対象に強力に勸奨することとなつたがこれが受入側にある鳥取県では如何なる方針で臨み如何なる対策を樹てているか、内藤教学課長の意見訊いてみよう

疎開に関しては十八日開かれた県下の地方事務所長会議に臨んでこれが受入れ協力方をお願ひしたが十九日県下の全視学を集めて具体案を協議決定近く発表する予定である、詳細な内容については疎開県と協議の上決定する方針であるが大体本県としては集団疎開の官舎は県下の旅館、廃業料理屋、寺院、別荘等を充当する構へでこれについては□□□□□□力がどれ位あるかを至急調査する本県の学童集団疎開受入れの地域は大体に交通不便な山間へき地をさけたいと思つてゐる、授業については国民学校で二部制教授を実施すると共に中等学校の学徒勤労動員で空いた教室とか寄宿舎を充てる、殊に第二四半期における中等学校の勤労動員は相当長期間に亘るのでその方面の利用も考へてゐるわけである、それだけで不可能の場合は寺院、旅館、宿泊所等で授業を実施する方針である、食糧についても何れ配給の範囲内になるか関係各課と具体的打合せを行つて準備を進める腹である、寄宿舎の寮母とか作業員につ□□ては地元で斡旋することにしてゐるが地元市町村については児童一人当り金額二円の割合で事務費を国と疎開県で補助することになつてゐる、又受入側については児童一人については宿泊料月五円程度とし食糧は一ヶ月二十円支給する筈でその他の経費については疎開県で負担する、割当の学童をどうしても受入れねばならぬ本県としてはこの国土の戦闘配置の線に沿つて県下各地方事務所並に關係各課と協議打合の上万全を期したいと考へてゐる

#### 四 県内視学が受け入れに関する具体案を協議

一九四四年（昭和一九）七月二〇日（2面）

学童の受入れは山間辺土を避く

わが国土の決戦陣の急速な確立に即応して大都市学童の集団疎開を受入れる鳥取県では十八日県下の地方事務所長会議に各都市の受入れ協力を懇請したが十九日は午前十時半から鳥取市東町教育会館に内藤教学課長、松井視学官ほか各県視学県下各地方事務所視学委員を集めて学童疎開受入れに関する具体案を協議した結果、学童疎開受入れの地域は交通不便な山間を避けることとし宿舎は旅館、廃業料理屋、寺院、別荘等を充て授業は国民学校で二部制教授の実施或は学徒の勤労動員でゆとりを生ずる中等学校の教室、寄宿舎等を利用することに大体方針の決定をみた

#### 五 学童疎開受け入れに関する件等を協議―県内地方事務所長会議―

一九四四年（昭和一九）七月二〇日（2面）

疎開受入

万全を期する地方事務所長会議

鳥取県の各地方事務所長会議は十八日午前九時から県庁参事会室に県下六郡の事務所長、県関係各課長が出席して開催、学童疎開受入れに関する件のほか左の提出議題について指示ならびに協議を行つた

教員待遇改善に関する件（教学課）空閑地利用に関する件（経済総務課）戦時農業要員事務取扱に関する件（同）麦類、馬鈴薯の出荷促進並に確保に関する件（農務課）報国麦供出に関する件（同）早害対策に関する件（同）稲の病虫害防除に関する件（同）肥料自給増産運動に関する件（同）薪炭夏期増産に関する件（林務課）

#### 六 学童疎開受け入れ等を協議―八頭郡国民学校の校長常会―

一九四四年（昭和一九）七月二〇日（2面）

八頭校長常会

賀茂国民校へ

八頭郡国民学校の校長常会は明二十一日午前十時から同郡賀茂国民学校で開催、学童疎開の受入れその他について協議する  
米子・西伯校長常会 西伯郡及び米子市校長常会は二十一日午前十時から就将校で開催される

#### 七 集団疎開の受け入れを歓迎―東伯郡校長会―

一九四四年（昭和一九）七月二三日（3面）

受入れ態勢促進

## 東伯軍校長会調査開始

京阪神方面の学童の集団疎開はすでに決定し、本県また受入れ県としてこれが受入れ態勢を整備する要急なるに際し、東伯郡校長会では廿日同問題をとり上げ、全面的に受入れを歓迎し万全なる準備を早急に完了することを決議したが東伯郡に於ける受入れ町村としては倉吉、社、小鴨、松崎、三朝、浅津、上小鴨、関金、赤崎、八橋、由良、浦安、西郷、下北条の十四ヶ町村を指定した

しかして二十二日午前十時より再び東伯地方事務所に於て、前記指定町村長、学校長らが一堂に会し更らに具体的な受入れ会議を開催することとなつたが、前記町村では直ちに旅館、寺院、公会堂等収容可能施設の諸調査を開始した

## 八 学童疎開受け入れ等を協議―気高郡国民学校長会議―

一九四四年（昭和一九）七月二日（3面）

気高郡校長会

青谷で受入れ協議

学童疎開及び教員待遇改善等の問題を議題として気高郡内国民学校長会議は二十二日九時より青谷国民学校に於て開催するが引続き決戦教育企画委員会をも開催する

## 九 学童集団疎開受け入れを協議―東伯郡教育界・校長常会―

一九四四年（昭和一九）七月二日（2面）

東伯郡教育会

新発足を協議

大日本教育会鳥取支部東伯分会に改組することとなつた東伯郡教育会では、廿日午後一時より倉吉成徳校に於て最後の常議員会及び総集会を兼ねた校長常会を開催、諸報告の後、来る八月一日倉吉町明倫校に於て、各校より代表者二名宛が出席して解散式並に結成式を挙行する事、本会□産協分はそのまま東伯分会維持財団を結成して引継ぐこと当日功労者を表彰、感謝状を贈呈すること等を決定、京阪神よりの学

## 童集団疎開受入れ問題につき協議した

## 一〇 大日本教育会で帝都学童の疎開後の教育方法について懇談

一九四四年（昭和一九）七月二六日（2面）

疎開学童に温かい愛の手

大日本教育会の対策

大日本教育会では二十四日教育会館で文部省里見青少年教育課長および東京都、埼玉県はじめ受入れ側十一県の教育会役員協議会を開催、帝都学童の疎開後の教育方法その他万端について懇談をとり、つぎのやうな数々の温かい愛の手を差伸べることになつた

一、万二帝都が空襲され通信が杜絶しても疎開学童と父母の安否を交互に知らせるため「教育会支部連合駅遞通信班」を組織し各国民学校高等科男子を自転車でリレー式に連絡させる

二、疎開した当座児童は淋しさのあまり帰りがたるので幻灯写真などを使つて慰安する、このため教育会直属巡回慰安隊および地方支部慰安隊を学校の先生や児童で組織する

三、疎開先では思ひ思ひの教育方法を探るおそれがあるので疎開学童教育研究委員会を設けて教育方針を決める

四、温泉旅館やお寺では教育に不便だから地方の学校ではできるだけ教室を疎開児童に開はうする

五、疎開するときの荷物の運搬や疎開後の洗濯の手伝ひに地元国民学校高等科女子生徒を出動させる

## 一一 近畿行政協議会中川副参事官、集団疎開実施について鳥取県と協議

一九四四年（昭和一九）七月二八日（3面）

集団疎開で協議

近畿行政協、中川副参事官来鳥

近畿地方行政協議会中川副参事官は二十七日午前七時二十分鳥取到着で来鳥、学童の集団疎開実施に関し県当局と具体的に協議懇談した

一二 鳥取県の受け入れ方針

一九四四年(昭和一九)八月一日(2面)

疎開学童受入れに最善を

空襲□□□□□□□□の□□を□□□□□□学童□□□□□□集団疎開が実施されるが鳥取県ではこれが受□対策□□□□□□究中であるが□□□□□□震災の復旧か思ふやうに促進されてゐない関係もあり復興□□□□合せて対策□□てる方針である□□が□□に宿舍と□ては寺院、□□、公会堂等を利用し各国民校□に割□□二部制の授業を行ふ予定であるが、一ヶ所の施設費に□□十円の費用が疎開地□□より支出されるはずである□□としても受入対策には一段の努力を以つて□□□□る方針であるとい□てゐる

一三 疎開学園は呼ぶ(一)

一九四四年(昭和一九)八月三日(3面)

疎開学園は呼ぶ(一)

あさ五時に起きるとお掃除をすましそれから先生も御一緒にみんなで乾布摩さつです、キラキラ光る大海原を渡つて朝の涼しい風が吹いてくる、はだしの足には冷たいきれいな砂が気持ちよくなり、ほんとに身体中一ぺんに眼が覚めるやうな気がします、今度東京はじめ重(ムツ)大都市の国民学校で三年以上全部疎開するんですネ、疎開学園はとてもいいですよ

(写真は海岸で朝の乾布摩さつ)

一四 疎開学園は呼ぶ(二)

一九四四年(昭和一九)八月五日(3面)

疎開学園は呼ぶ(二)  
昼寝で休養

乾布摩さつが済むと朝礼があつて午前七時にはおいしい朝の御飯を頂き八時から十一時まで授業があります授業は市にゐた時と同じですが近所が清々しいせいか、先生のお話がとてもよく覚えられるやうな気がします、お昼御飯の後で十二時半から午後一時半まで楽しい昼寝の時間があります、窓を開けつ放つた風通しのいい涼しいお室で一時間の昼寝をするととても頭がすつきりして元気が出て来ます  
(写真は涼しいお室で昼寝)

一五 阪神地区の集団疎開受け入れ県に学童の食品の立替配給を指令―農商省―

一九四四年(昭和一九)八月六日(2面)

疎開学童への食品  
実施と同時に立替配給

帝都ならびに名古屋の学童集団疎開は着々進捗、同時に大阪、兵庫を中心とする集団学童疎開も目下進発一步前にあるが、農商省ではこの阪神地区の学童集団疎開に対しても主要食品、味噌、砂糖などの配給が疎開開始と同時に実施されるやう大阪府の受入府県たる京都府、滋賀、奈良、和歌山、石川、福井、香川、徳島の諸県、兵庫県の受入側岡山、鳥取の各県に対して四日緊急次官通牒を發し大阪、兵庫の学童が集団疎開実施と同時にたゞちに立替配給をなし置くやう指令した

一六 疎開学園は呼ぶ(三)

一九四四年(昭和一九)八月六日(2面)

疎開学園は呼ぶ(三)  
船頭さんのお手伝ひ

ワツシヨイ、ワツシヨイとみんなでお舟の引き揚げ、最初のうちは一寸市でお祭の時

おみこしをかついだことを思ひ出しました、しかしこの方がおみこしよりも健康的で気持ちがいい、これは午後の作業の時間に船頭さんのお手伝ひをしますので、作業の間にはこのほか食<sup>(糧)</sup>品を運んだりお風呂場の掃除をしたり、村の人たちのお手伝ひをしたりします、作業は勤労の尊さもわかりますがとても後の気持ちがさわやかでいいものです  
(写真は舟の引揚げ作業)

### 一七 軍事扶助受給の疎開学童への扶助方法を決定―鳥取県―

一九四四年(昭和一九) 八月八日(2面)

学童集団疎開に受入準備進捗

軍事扶助の方法を決定

国民学校三年以上の集団学童疎開は本月中に実施され受入れ側にある鳥取県は本月末頃から受入れを開始するやう諸般の準備を進め近く宿泊所に充てられる寺院、旅館等の調査も完了する予定であるが県ではこれらの疎開児童のうち軍事扶助を受けてゐる者に対する扶助方法を次の如く決定した

▲生活扶助は従来の学徒の住所地市町役場において行ふ、集団疎開の場合は世帯主の負担する費用を免除する▲医療については軍事扶助を受けてゐるもの或は軍事扶助を受けなくとも医療費困難なものに対しては従来の住所地市町役場で負担する

### 一八 疎開学園は呼ぶ(四)

一九四四年(昭和一九) 八月九日(4面)

疎開学園は呼ぶ(四)

午後の五時に楽しい夕御飯がすむと七時まで自由時間でみんなが思ひ思ひに遊びます、男の子は角力をとつたりしようぎをさしたり、女の子は縄とびをしたり、おはじきをしたりするのですか、あたりが広々してゐるのでほんとに気持ちのびのびします七時から八時が黙学、九時がお寝みの時間です、いまおさらひをしてゐるこのお室からは緑色の山が一杯に開けてとても涼しい感じ、みんな早く疎開して楽しく元気

で勉強しませう

(写真は、夕食後のおさらひ)

### 一九 疎開は国民の戦闘配置

一九四四年(昭和一九) 八月二日(4面)

疎開は逃避ではない

「そ開は逃げ腰になれといふのではない」

空襲必至の状況に備へ皇土防衛の完璧を期するため大都市そ開は是非とも遂行されねばならない、空爆により敵英国の首都ロンドンでは早くもそ開して実行して一九四三年のあの独逸の連続爆撃の被害をも或る程度防止し、近くはまた独逸の新兵器流星弾<sup>(V2)</sup>▼一号の猛襲に、十七万の人間が早くもそ開を完了したと報せられてゐる盟邦独逸のベルリン、ハンブルグ等の大都市でもまだ完全なそ開を完了□□敵米英大空襲の被害を相当程度にくいとめてゐる、わが帝都は勿論六大都市その他これに準ずる指定都市では、最近漸く活□にそ開が行はれつつあるが、未だ完璧とまで行つてゐない憾みがある、敵機はわれわれのそ開を待つてはゐない、一刻も早くそ開が完了され敵機きたらばきたれわれに鉄壁の守りある防衛都市の出現が速急に期待される、戦闘要員、防空従事者、重要産業要員を除く遊休者は一日も早く大都市を去つて適当なそ開地に待避して政府の次の号令をまつべきだ、次代を背負ふ学童そ開も漸く軌道にのりつつある、再びいふ、そ開は国民の戦闘配置である、災害を最少限度にくいとめる防衛処置である、一身の安泰、一家の榮榮のための逃避では断じてない、そ開により都市の防衛は強化され、地方の生産力は一段と昂揚され、この凄絶苛烈な現戦局を勝ち抜くに必要な総合戦力の増強が期せずして行はれるのである

### 二〇 日婦が「一日お母さん運動」に乗り出す

一九四四年(昭和一九) 八月一日(2面)

「一日お母さん」

疎開学園に日婦出勤

疎開学童の母親代りのお世話の内務当局の指示にもつき寮母が当つてゐるが、寮母のないところ、足りないところなどあるので日婦では「一日お母さん運動」に乗出すことになり各地方支部に指令を發した、方法は原則として疎開地の日婦会員を主軸に疎開地を中心とする附近町村から輪番制で出勤、期間は一日交替といふことになつてゐる。

## 二一 疎開受け入れ等を協議―鳥取市国民学校長―

一九四四年（昭和一九）八月二五日（2面）

### 鳥取市学校長疎開受人協議

鳥取市では近く受入れべき学童の集団を開及び学校給食問題につき十六日市教学課に市内各国民学校長の参集を求めて協議する

## 二二 米子市就将国民学校に縁故疎開学童が五〇名在籍

一九四四年（昭和一九）八月二〇日（3面）

### 童心に隔てなし

#### 就将校に疎開学童五十名

米子市では近く集団を開の約四百名学童を迎へんとしてゐるが、これに先だち現在では市内各学校に約三百名の縁故を疎開学童たちが元気で通学してをり尚毎日のやうに数名の疎開学童が増加の傾向にある

これら疎開学童たちはほとんど父親とか同伴者はなく母親といつしよに開してくるのは良い方では学童ひとり郷里の縁故者の家に開するといつた者が多いのであるが、かうした事情を学校当局では充分考慮し、疎開学童に対して何の不安もなく澆刺として勉学にいそしませることに万全の努力を払つてゐる

「学童は自分の子ではない陛下の赤子である」と□に母親学校で県下に先んじて学童□□に多大の成果をあげた就将校、□□を疎開学童に対しても同じ主旨のもとに善導につとめ在学生徒と疎開学童との友愛も非常に良好であり現在五十名あまりの疎開学童たちは喜々として毎日勉学にいそしんでゐる

同校六年生を疎開学童茂筑銀次君及び杉本英子さんとともに最近縁故を開してきたがその感想を次の通り語つた

**茂筑銀次君** この八月二日に私は呉市から母と妹二人とそ開してきました、来てみてのんびりしてゐることを先づ感じました田園の景色は非常にたのしくよく勉強が出来、友だちも親切にしてくれるので嬉しく思ひます

**杉本英子さん** 大阪から今月の十一日に疎開して来た私は田舎に住むのは生れてはじめてでしたが都会にくらべて閑静なこちらの生活は大へん住みよいと思ひます向ふでは学課の方はこちらより少しおくれてゐます、買ひ出しなどといふこともこちらではあまり見かけませんし、心配なく勉強が出来ます、友だちもすぐに出来まして今では何の不安もなく日々のしく学校に通つてをります

また同じく六年生在学生の小原博子さん及び雅賀敬一君は、「疎開して来た人たちは父母と別れてきてゐる人たちですから心から親切にしてあげて早くこちらの生活に慣れさせてあげて仲よく暮らしたいと思ひます」と純□な□持で疎開学童を迎へる気持を語つた

## 二三 鳥取県が神戸市の疎開学童四千百名の受け入れを決定

一九四四年（昭和一九）八月二〇日（3面）

### 万事に親心を

#### 集団疎開受入地を決定

本月下旬から来月上旬にかけて学童の集団疎開受入れを実施する鳥取県ではこれが受入れ□万遺漏なき態勢を整へ既に県下各市町村の寺院、旅館、転業料理屋等の収容力調査を完了、早くも集団疎開学童の受入割当を実施してゐるが、県教学課当局ではこれ等集団疎開学童の受入地域に関しては学童父兄の便宜を計つて交通不便な山間へき地をさけ、出来るだけ鉄道沿線の市町村を選択するなど温き親心をもつて臨んでゐる

本県に集団疎開する学童は神戸市、尼ヶ崎市等で神戸市の学童疎開に就ては過日伊藤兵庫県内政部長、神戸市助役等が来県、教学課当局と膝を交へて具体案を練つた結果、同市の疎開学童四千百名の受入れを決定、県当局では十八日次の如く県下各市町村に受入割当を行つたが疎開先宿舎は鳥取、米子両市は主として寺院を充てその他の町村は旅館を充てることになり本月下旬頃から先遣隊の集団疎開に続いて九月上旬には大体神戸市学童の受入れを終る予定である



▲鳥取市四百名▲米子市四百名(内皆生温泉百名)▲気高郡●吉岡百名、正條村  
 浜村百名、青谷二百名▲岩美郡●浦富百名、岩井二百名▲八頭郡●用ヶ瀬百名、  
 船岡百名、若椋二百名、智頭二百名▲東伯郡松崎二百名、浅津百名、倉吉三百  
 名、二三朝五百名、関金百名、由良百名、八橋百名、赤碕百名▲西伯郡●御来屋  
 百名、淀江二百名▲日野郡●根雨百名、溝口百名

二四 集団疎開受け入れなどを協議―地方事務所長会議―

一九四四年(昭和一九)八月二十四日(2面)

地方事務所長当面問題協議

鳥取県の地方事務所長会議は県下六郡の所長ほか県関係各課長係員□出席して二十二  
 日午後一時から県庁参事会室で開催、次の諸問題について指示並びに協議した

震災記念行事に関する件、学童□集団疎開受入に関する件、□□□□□□□□関す  
 る件、本□□米麦、馬鈴薯の供出に関する件、町村農業会の指導監督に関する  
 件、農業会倉庫建設及び復旧工事の促進に関する件、林業労務報国団設立に関す  
 る件、木材増産推進組織結成に関する件、民有林伐採に関する件

二五 集団疎開受け入れ準備―米子市―

一九四四年(昭和一九)八月二十五日(3面)

さアお出でなさい

学童疎開に米子市万全

米子市への集団疎開学童先発隊は今月末までには到着する予定でおそくとも来月中旬  
 頃までには四百名の疎開学童全員の受入を完了する筈であるが配置先は福生校及び角  
 盤校にそれぞれ百名宛就將、義方、啓成、明道の各校に各々五十名宛と決定、宿舍は  
 目下交渉中である、学年別不明のため教授方法等は未定であるが、給食に就ては主要  
 食は配給を切換へ衣類、夜具等に関しては疎開児童携帯のもので大体間に合ふ筈であ  
 り、炊事は児童百人に対し三人の炊事人、寮生活の指導には児童百人に対し四人の寮  
 母が疎開先から附添つて出向するが現地側では婦人会員その他の奉仕を得ることにな

つてをり何の不安もなく疎開児童が勉学出来るやう万全を期してゐる

二六 日本出版配給統制株式会社が疎開学童に雑誌配給

一九四四年(昭和一九)八月二十五日(3面)

疎開地のヨイコに雑誌配給

勝つために疎開した学童達にとつて何よりの慰めであり心の糧となる雑誌を疎開地先  
 でも読ませてあげようと日本出版配給統制株式会社では文部、内務両省、情報局、各  
 地方庁および日本出版会などの協力を得て集団疎開学童に対する少国民向出版物の計  
 画配給を行ふこととなつた、配給される雑誌は少年倶楽部、少女倶楽部、ヨイコノト  
 モ、少国民の友、子供の科学、航空少年、若椋、海軍、週刊少国民、飛行少年の十種  
 でその配給量は疎開学童十人に対し以上のうちいづれか一冊が遅くとも十月までには  
 手渡される予定である、その手続は疎開地学校の引率代表者が学童の希望を一括して  
 疎開先道府県日配出張所宛規定により申請書を提出すればよい、なほ日本出版会では  
 雑誌以外の単行本その他の配給も考慮中である

二七 集団疎開に自宅を提供―鳥取市―

一九四四年(昭和一九)八月二十六日(3面)

学童集団疎開に自宅を提供

学童集団そ開四百名の受入対策を進めてゐる鳥取市ではまづ宿舍として市内寺院を利  
 用することとなり天徳寺、最勝院、興禅寺、大隣寺、芳心寺、真宗寺等に交渉しほど  
 決定の見込みであるが鹿野街道田中重兵衛氏は自宅を提供しませうと申出でて当局を  
 感激させた

二八 県内各市町村に学童集団疎開受入対策協議会を設置

一九四四年(昭和一九)八月二十七日(3面)

学童疎開に万全  
受入対策協議会

集団学童疎開の受入れに万全の対策を進めてゐる鳥取県当局では県下各市町村に学童集団疎開受入対策協議会を設置し市町村長を会長に国民学校校長、市町村会議員、農業会長、婦人会長、各種団体長その他学識経験者を評議員に任命しこれが受入方策と運営について協力させることになった

二九 兵庫県・神戸市視学が疎開地の現地調査のため来県

一九四四年（昭和一九）八月二七日（3面）

疎開現地調査

神戸市から来県

神戸市から集団疎開する学童疎開地の現地調査を行ふため兵庫県視学、神戸市視学の一行は明二十八日來鳥、県教学課当局と協議懇談の□鳥取、米子両市のほか県下各郡地方事務所を訪問、宿舍の受入計画その他について具体的打合せの上、疎開受入現地を調査する、同一行の本県滞在は本月末日までの予定で同調査の結果疎開の最後の決定を見る筈で疎開学童の本県入りは大体九月月上旬に実現する模様である

三〇 受入対策委員会の設置—東伯地方事務所—

一九四四年（昭和一九）八月二七日（3面）

学童集団疎開

受入態勢は完整

東伯地方事務所では学童集団疎開の受入準備は大体完了したが受入後の対策について万全を期するため今回受入対策委員会を設置、委員長に□地方事務所長、常任委員に上田総務課長が就任し委員に警察署長、動員署長、農業会支部長、翼壯団長、駅長、教育会長等十七氏に委嘱して疎開学童に関する食糧、医療、交通問題等一切を解決する機関として決戦下の子供を守り育てることになった

三一 集団疎開の宿舍割当の協議会を開催—倉吉町—

一九四四年（昭和一九）八月二七日（3面）

準備は出来た

疎開学童よ何時でも来れ

倉吉町受入割当

勝ち抜く国内総進軍ラツパのもと可憐な国民学校児童も堂々の行進を開始した—遠く父母の膝下を離れて見知らぬ町へ村へと学童の集団そ開は倉吉町でも約三百名の児童を神戸市から受入れることに決定、着々とこれが受入体制を整備してゐるが二十五日午後一時から宿舍割当の協議会を東伯地方事務所で開催同町内の寺院、料理店、旅館主等を集めて懇談の結果

畜産組合五十名、市川天理教三十名、黒住協会三十名、風月楼三十名、石井旅館二十五名、宮川町公会堂三十名、大岳院二十五名、内海旅館二十五名、牧田旅館二十五名、大磯旅館二十五名、中井旅館二十五名、妙寂寺二十五名、井□三十名、松原旅館二十五名、余戸各町公会堂二十五名

の割当を行ひ受入に際しても□身の親心をもつて当るやう要望受入宿舍側でる(ママ)全面的に協力してあくまで大東亜戦争完遂にばく進するやう誓つて「疎開学童よ何時でも来れ」の体制を完備してゐる

三二 受け入れ側の心構え—日本青少年教育研究所長・青木誠四郎談—

一九四四年（昭和一九）八月二七日（4面）

疎開学童を迎へて

受け入れ側の心構はかうして

青木誠四郎

全国六都府県の学童達が国家要請に依へて集団そ開や縁故そ開をし、われわれの仲間入りをしてきた、これら大勢の国家の子供達と共に立派に育むために受け入れ側の物的準備は完全であるが、精神的協力態勢はどうか、その心構へを日本青少年教育研究所

長青木誠四郎氏に伺つてみた

人間生活は□激に変動させることの難しいもので、都会生活より農村生活に移つてゆく、その過渡期を先生も町の人々も考へてやらねばならない、児童と先生が地方生活に積極的にとけこんでゆかうとする気持は勿論大切だが、気持はあつてもなほある期間を必要とする、即ち、農村の子供にとつては家事や家業の手伝ひは相当の領域を占めてゐる、ところが都会の子供達の生活の主体をなしてゐたのは遊びであつた、それ故、都会の子供達は地方人からみたら遊んでゐる、怠けてゐる、働かないといふ感じをもつだらう、そこを暫くの間はひろい目でながめて急激な期待をかけず、徐々に指導してゆくことである、そ開学童も農村労力を補給しなければならぬ、そのためにはまづ教師などが学校で次第に勤勞奉仕をさせてゆくとか人手不足の家庭に手伝ひにやるといふやうに導き、農村生活に合致させてゆくことである、これは集団そ開より以上に縁故そ開の学童にとつては土地の先生の協力が必要である、第二に都会からきた子供達を特別視したり批判の眼をもつてみてはならない、もつと大きく国家の子供をいかにして育てるかに協力する態度であつたい、そして子供達には友達がきたんだからといふ親しきをもたすやうに努力したい、第三にはできるだけのことを物的にもしてやらう集団そ開の場合は問題は少い、縁故そ開では、例へば食糧の問題にしても自給農家の子供達の弁当はそ開者のそれより充実してゐやうが、そこにみじめな感じをもたさぬやうにしたいものである

### 三三 疎開地の最終決定

一九四四年（昭和一九）八月三〇日（3画）

学童疎開地を決定

神戸市から二千七百名

神戸市学童の集団疎開受入に万遺漏なき態勢を進めてゐた鳥取県では二十八日兵庫県から片山視学官、稲田視学委員、谷口、影山両県視学のほか疎開関係学校長等十五名を迎へ午前十時半から県教學課で来県の一行を中心に本県側から古城内政部長、内藤県教學課長、松井視学官ほか各県視学が出席して種々協議懇談の結果、本県疎開先の最後の決定をみた

本県の疎開受入先の割当は次の通りで鳥取、米子、日野の二市一郡に対しては疎

開受入を実施せぬことになつたがこれは鳥取市は震災の關係で又米子市は軍都計画の關係等を考慮して兵庫県当局から自発的に遠慮したもので結局最初の受入予定数四千五百名をウンと減じて二千六百九十九名の集団疎開を受入れることに決定した

なほ来県の一行は二十九日から三十一日まで十五名を四班に分けてそれぞれ疎開先の实地調査を行ひ宿舍と受入人員の決定をみることになるが、調査の結果によつては左記割当の移動も多少は免れぬものとみられてゐる、又学童の集団疎開については五十名に対して訓導一名で保ばは百名に四名でうち二名は受入地先で斡旋し作業員も百名に三名でうち二名は受入地元で斡旋することになつてゐる、なほ集団疎開の実施は九月十日頃から開始する模様で受入準備完了町村から逐次疎開して頂く方針である

▲岩美郡 岩井町、浦富町三一〇名（神戸市林田区長田国民学校学童）

▲八頭郡 船岡町、用ヶ瀬町、智頭町、若桜町三六九名（同区二葉校）

▲気高郡 吉岡村、正條村、青谷町三四〇名（同区名倉校）

▲東伯郡 松崎村、浅津村三六〇名（同区千歳校） 三朝村三四一名（内訳同区池田校一七八名、同区室内校一六三名） 倉吉町、矢送村三三七名（兵庫区川池校） 浦安町、由良町、八橋町二六〇名（同区中道校）

▲西伯郡 赤碕町 御来屋町、淀江町三八〇名（同区中場校）

### 三四 集団疎開について―兵庫県視学官・道場国民学校長の談―

一九四四年（昭和一九）八月三〇日（3画）

神戸市視学等

西伯郡視察

神戸市内が西伯郡内に学童四百名を集団疎開する兵庫県ではこれが打合せ協議のため兵庫県視学官片山久氏、神戸市道場国民学校長竹一茂治氏は二十九日来米した、両氏は疎開に付て次の如く語つた

学童の集団疎開に付ては地方の方々の温かい協力を依つて迎へられ感謝に堪へない、児童は在校生と勤勞勉学を共にし精神と肉体的に達成出来なかつた点を充分体得させてやりたいものと念願してゐる

尚集団疎開に依つて大半が疎開したため結局西伯地方へは淀江町二百、御来屋百名

で米子、日野郡は疎開せずすむことゝなつた

### 三五 集団疎開受け入れの確定―淀江町―

一九四四年（昭和一九）九月二日（2画）

淀江町受入

神戸から二百名

西伯郡淀江町におけるそ開児受入体制はすつかり、整ひヨイ子早くお出でと待受けてゐるが、二十九日は片山兵庫県視学と神戸道場校長竹一繁治氏（マツ）が来町して打合を行ひ且つ宿舎その他を視察して満足して帰県したがこれより愈々近く二百名のそ開児童が来町することに確定した

### 三六 文相が群馬県の疎開状況を視察

一九四四年（昭和一九）九月二日（3画）

まつたく申分ない

文相疎開児童へ思ひやり

（群馬磯部にて同盟特派員発）戦ふ帝都の少国民たちが勝つために集団疎開してからはやくも二旬にならうとする三十一日將軍文相二宮さんは埼玉県本庄町の円心寺佛母寺安養寺群馬県磯部の鉱泉旅館にこれら学童の疎開状況を視察したこの日二宮さんは午前十時二十五分円心寺に到着本堂内の寝所自習室にきれいに並べられ柳行李トランクなど学童たちの身廻品を見廻つたのち「蚊帳はあるだらうね」「男子と女兒は別だらうね」「冷えて寝小便をする子はあないかね」「病人は？」とつぎつぎに温かい質問を發し、さらに食糧問題についても献立表を一覽して安心する、かくて寮訓―忍耐、規律、協同、礼儀、敢闘の五ヶ條を忠実に守る学童たちの見送りをうけてここを出た二宮さんは佛母寺、安養寺、群馬県の磯部鉱泉旅館などを同様視察、午後三時二十九分磯部駅発歸京の途についた  
（写真は本庄町円心寺で）

### 三七 集団疎開受け入れ準備―東伯郡―

一九四四年（昭和一九）九月二日（3画）

疎開学童に理想境

東伯郡の受入準備成る

皇国の興廢をとしたこの大戦争を勝ち抜くために大都市の学童達が集団疎開することゝ決定して以来本県における割当ての三分の二を引受けた東伯郡では東伯郡地方事務所を中心に警察署、動員署、農業会、商業□制組合、水産会社、青果会社、翼賛会、町村長会、教育会、婦人会、開催町村等が打つて一丸となり「東伯郡学童疎開対策委員会」を結成し、爾来同会を中心に万全の受入れ態勢準備に努め二十九日には疎開地神戸市から視学、関係校長らの視察調査隊を迎へて更に実地につき協議懇談した結果、こゝに一切の準備を完うし燃え上る地方民の歓迎の熱意を反映して「さあ、何時でも来て下さい」と今やその訪れる日を待ち構へてゐる

なつかしい父兄の膝下を離れて見知らぬ他郷に疎開する学童達を迎へる東伯郡の山河は山青く水清く、しかも世界一を誇るラジウム温泉あり絵のやうに美しい湖あり、美しい人情の暖かさとともに可憐な児童達の心を決つと明るく健やかに育成するだらう

以下各受入町□□□その準備全体をみやう

#### 倉吉町

兵庫県松本通り川池校二二五名を受入れるが、宿舎は林旅館三二名、出雲屋旅館七六名、宮川町公会堂五五名、学泉寺三四名、松原旅館二八名となつてゐる、これらは何れも部屋環境とも優れ設備としては万全である、中でも嬉しいのは受入るこれら旅館、寺院の人々の美しい心遣で何れも口を揃へて「自分の子供達が帰つて来たつもりで出来るだけの御世話しますからどうかお母さん達御安心を……」と語つてをり、林旅館の如き主人の内海はるさんも最近神戸から帰つた人だけにその熱心さは人一倍「私が寮母になつてどこまでもお世話します」とうれしい決意をみせてゐる

これら二二五名の学童は大体成徳校二学級、明倫校二学級、上灘校一学級の割で編入され、□校の児童達とともに一体となつて勉強に、体□に、山や河をかけ廻ることゝなつてゐる

## 矢送村

ラジウム温泉として知られて美しい山峡の温泉郷関金に宿舎は津島安秋さん方  
一五〇名、小川健蔵さん方二五名、鳥飼旅館二〇名、山根旅館二〇名でここにも倉  
吉町と同様川池校の生徒一一五名が入る

このうち津島さんは製材所を経営してゐるが御主人の安秋氏は帰環勇士、自ら卒先  
して自宅の開放を申出た人だけにその熱意は大変なもの「道用ミチユキなんかいらぬ、貰つた  
ら献金します」と洩らし、便所その他の改造も全部自分でどんどん造作してゐる張切  
り方、広い邸宅の庭には大きな池があつて一尺二尺の大鯉オビが遊戈してゐるから都会の  
児童達は蓋し仙境に入った感を抱くに違ひない

また小川健蔵さん方もこれに負けぬ熱心さ、自分達の家族は裏の離れに引越して  
自宅の本居を一切開放しやうといふ有様、美しい庭園、温い人情、学童達は飛び  
上つて喜ぶに違ひない

また旅館側も目下改装中で、毎日温泉に入れるだけでも恵まれてゐるといへやう、学  
校矢送校は設備も万全、そのまゝ一緒に授業が可能である

## 三朝村

世界一のユチユチラウム温泉郷として余りにも有名だ、美しい三朝川のせせらぎには河鹿  
が鳴き鮎アサギが遊ぶこは全旅館が心よくその綺麗な客間を開放してくれた、ここに入る  
のは、神戸市林田区の室内校、宿舎は岩崎旅館が五〇名大橋旅館が六六名、御茶屋福  
屋、赤崎屋岩湯、元油屋、四観館、煙草屋、桶屋旅館、三朝館等が何れも二五名宛で  
合計三四一名の大村だ

三朝校では二部教授は廃止してあくまで一緒に授業が出来るやう設備の拡充を  
つて行く方針である

## 松崎村

はるか羽衣石の旧城を望み、美しい東郷池のほとりこんこんと湧き出る温泉郷で環境  
からいへば正にこれ以上の処はあるまひ

こゝでは神戸市林田区千歳校生徒二〇七名を受入れる養生館三二名、谷水旅館  
一五〇名、忠成館二五名で谷水旅館の如き女将が大□な張りきり方、愛兄を予科  
鍊カネに出してゐるこの七つボタンの母は「全部自分の息子としてお預かりします」  
と語つてゐる程で四季とりどりの果樹園にかこまれたこの理想境はどのやうに幼  
い魂を喜ばすことが

## 浅津村

東郷池を渡つた対岸の温泉郷、望湖楼六十名、東郷館二五名、日進館二五名、日ノ  
館五〇名ここにも同様千歳□が□る

## 八橋町

日本海を見るミるかすこの町では中井旅館に三四名、養気楼三四名、明徳武夫さん方  
二〇名計八四名が入る  
疎開校は中原校、日本海の潮香が遅ましく健やかに学童達を育んでくれる、  
海を持つこの町こそ少国民鍊成道場として正に理想境だ

## 由良町

この町は全部町の有力者達が自宅を開放しての歓迎である、松井（離カ）□男氏方五〇名  
□□鋭郎氏方三〇名、米田□隆氏方三〇名、田中雄太郎氏方二十九名、大谷芳松氏方  
二九名計一六八名で中原校生徒が迎へられる

## 赤碓町

神戸亭二五名、齊木別宅二五名、託児所五〇名計百名で道場校児童と決定した、この  
赤碓、由良、八橋の各町村は何れも海に臨んだ美しい町、人情のこまやかさに育マま  
れて海岸に荷上げされるピチピチはねる鮮魚はどのやうに都会の児童の心を豊マけるか  
知れない何れも地許校すく□□□に万全の受入れ準備が出方□□てゐる

## 三八 集団疎開受け入れ準備―御来屋町―

一九四四年（昭和一九）九月二日（3画）

名和公の遺風で

御来屋町受入れに万全

東伯郡御屋町（マ）では神戸市からの学童集団疎開に百名を受入れることになつたので先づ  
宿舎を物色してゐたが種□飼育場に五十名を収容、民家二戸に二十五名宛収容と決定、  
早速その受入準備を進めてゐるが同町では何か特にこれらのヨイコ達を満足させるす  
べはないかと工夫をこらしてゐる、尤も同町にはかの建武中興の大忠臣をまつる名和

神社、従つてその遺跡に富むだけに他には真似できぬ精神的向上に資する立派な特徴があるわけだが、農地開発営団から借入れてある広大な畑地に着目してこゝに穫る大豆やソバを都会のヨイコに提供しよう、そしてオヤツで大いに元氣をつけようと張切つてゐる、また日婦会員の人々ははれう母として来る人々を助けて何事にも奉仕しようとする手筈などを協議してゐる

### 三九 集団疎開受け入れ準備—淀江町—

一九四四年（昭和一九）九月二日（3面）

良き寮母中心に

淀江町、二百名に施設

西伯郡淀江町では集団疎開学童二百名を迎へることになつたがこれが収容には公会堂及び民家二戸、旅館五戸（町内全旅館）計八戸を宛て一戸二十五名平均で炊事は□に農繁期に際して使用した共同炊事器具があるのでそれをあて集団生活には現在格別これといふ目新しい計画はないが寮母を中心に万全を期するはずである

ところで授業には四学級増加の必要があるのが差詰め裁縫室及び理科室を普通教室として当て他の二教室は目下対策中である、れう母は前記旅館並に民家の主婦たちが殆ど女学校出身程度の有能な人たちで疎開先から附添つてくるれう母とこれらの人々の応援により、また出征軍人家族などの有志をれう母に迎へて保育第一の準備をすすめてゐる

なほ受入側としての抱負は勝ちぬくための疎開なるが故に疎開してくるヨイコたちには出来るだけの便宜を図り育成につとめ父兄たちに危みの念を抱かせるやうなことなく安心させたいと各方面を連絡協議してゐる

### 四〇 集団疎開受け入れ準備—東伯郡—

一九四四年（昭和一九）九月五日（2面）

戦ふ童心の育成へ

東伯郡学童疎開に親心

本県への疎開児童二千九百名中一千数百名を引受けた東伯郡では既に宿舎も決定し目下□開、食糧、輸送、勤勞奉仕、疎開児童援護等に関して万全の準備を進めつゝあるが、この決戦下に行はれる児童疎開こそ皇国の勝利を願ふ「童心の戦ひ」である送り出す父兄の心になつて、親身で一切の準備が行はれなければならぬ、東伯郡では地方事務所を中心として学童疎開対策委員会が中心となつて父兄の心を心としていま懸命の準備を進めてゐる、以下出来上つた準備の全貌をお伝へしよう宿舎、環境等については既報の通りで山あり河あり本県の誇る温泉郷、海浜道場のすべてが開放され全く申分はない

#### 寮母と作業員

一年間真実のお母さんになれる寮母こそ学童の心を明るくもし、暗くもする、東伯郡への五十六名の寮母中三分の一は神戸から附添つて来るが残りの三分の二は地許から詮衡する従つてその人選には最も腐心してゐるから宿舎を引受けた旅館の女将から個人住宅を開放して温い家庭の主婦達が「この上は自分の子供として引受けませう……」と沢山申出、中には愛児を七ツぼたんの予科練に捧げた母や、最近同様神戸地方から疎開して来た婦人もあり、また元教員をしてゐた人看護婦免状を有する人等々、既に理想的な人選を終り立派なお母さんが生まれてゐる

問題は作業員は学童百名に三名の割が必要、これは学童のために炊事をしたり、お洗濯をしてやつたり、相当眼の廻るいそがしい仕事だが家庭を持つた婦人、子供を持つた人々にはなんでもないことだ、たゞこゝでも問題となるのはその人がらであり、温しい心の人が求められる、この方は通ひでもよく大体報酬は八十円（食費二十円引き）位、目下募集中で家族の少い出征勇士の奥さんや、未亡人達の奮起が望まれてゐる

#### 食糧へ心遣ひ

新鮮な鮮魚、蔬菜等不自由をさせてはならぬと既に水産会社、農業会と密接に連絡をとつて対策が出来上がつてゐるが、さらに委員会では六日三朝村で協議の上その他漸次各受入れ町村とよく打合せして万全の方法を樹立するが果樹類に恵まれた当地方だけにおいしい二十世紀梨なんか学童を喜ばせるだらう

#### 世話は奉仕で

一番多い三朝温泉への学童のお荷物はトラックや荷馬車で運び、その他は地許の学童達が新らしいお友達のために自ら荷車をひいて奉仕すると張り切つてをり、この方は

も一切準備が完了した

シヤツも破れやう、三日に一回位はお洗濯も必要だ、とても限られた寮母や作業員の手で充分やれる筈がない、このときこそ地許のお母さん部隊や姉さん部隊、即ち婦人会女子青少年団の奉仕分野が大きな課題となる

既に委員会では日婦支部と密接な連絡をとつた、「自分の子供達だと思つて都会の母の心を思つて、温い奉仕をしませう……」と、地許婦人会の人とは引受けてくれた各町村部落輪番で、お母さん部隊や、お姉さん部隊が慰問や、お手伝ひをしてくれるのだ、さらに、ある時は梅干の供出もしやう、□豆をいつて持ち寄らら、時々は慰安会を開きませう、おやつと工夫をいたしませうと色々うれしい計画が樹てられてゐる

#### 器具は不十分

受入の心構へは出来ても困難なのが諸設備を完備することだ、学校にしても二部教授はしない方針だから、どうしてもつくえや椅子が不足勝である、宿舎にしても便所、風呂場、お洗濯場をはじめ、各部屋部屋の勉部つくえや食卓にも、困つてしまふ

これに対して委員会は目下色々な方法を講じつつある、いよいよ資材がなければ有志の人々に持ち山の木材を切つてもらつてこれで勉部つくえ兼食卓を作らうとしてをり、或は婦人会等の手で空木水箱を集め、これに紙をはりつけて、臨時の整頓箱兼本箱としやう等とその苦心は大変だ

なべ、釜にしても大半金属回収に出したあとだから困難だ、出来る限りなべ釜のやうなもの、都会から(給食施設分)なんか持参するやう進絡をとつてゐる

#### 教育法に苦心

一番問題となり根本をなす大切な問題がこれだ、この点また論評すべき時でもないが、都会地学校の分教場とするか、地許校の依托教育にするか、これが大切な問題で、これを立派にきちんとしておかぬ限り、今後難問題が必ず生れる恐れがある、地許として一番希望し、また郷に入れば郷に従ふ疎開教育の根本は、安心して一切の教育方針を地許にまかせてしまふことである、名和公精神、軍神教育がさんとして光を放つ本県教育はどうして安心出来ない筈はない

#### 四一 受入対策協議会を開催——岩美郡——

一九四四年(昭和一九)九月六日(2画)

岩井と浦富に疎開  
岩美郡三百学童に万全

岩美郡内の学童集団疎開受入は神戸市林田区长田長田国民学校から浦富町竹間、片山両旅館に八十三名、岩井町各温泉旅館に二百二十九名と決定、来る十日、十五日の二回に亘つて疎開するが同郡地方事務所ではこれが受入れに万全を期するため四日午前九時から同郡本庄国民学校で来県中の長田校を兼任指導二名を中心に関係者が集つて受入対策協議会を開催した結果(マツ)そ開学童の食糧に関しては副食物は郡内で全部引受けることに決定、授業は旅館、授業場、学校等で実施する方針で黒板その他授業用資材は先方から持参し一部を地元で斡旋することになった、又疎開学童の慰問、慰安方法については地元婦人会、附近国民学校学童がそれぞれ万遺憾なきを期することになつたなほ疎開訓練は浦富二名、岩井五名(うち女指導一名)寮母は浦富三名、岩井八名でそれぞれ学童とともに疎開する婦人が学童の母となつて面倒を見ることになつてゐる

#### 四二 疎開学童の保健問題——文部省・厚生省より通牒——

一九四四年(昭和一九)九月八日(2画)

地元で保健に協力  
疎開学童の医療に留意

学童集団疎開は大体本月中旬をもつて完了することになつたが、疎開学童の父兄達にとつてもつとも気遣はれることは学童の保健問題である、文部省ではこれが対策については万全を期し厚生、農商両省をはじめ関係各省と協議の結果具体的方針を決定したので六日地方長官宛通牒を發した、通牒の内容は受入側および疎開側地方庁が学童の保健について注意すべき事項ならびに疎開先の寮舎に常備すべき応急薬、医療医薬品の配給など万全の措置を講ぜられてゐるがとくに疎開学童の教育に当る教職員が保護者たるの責任と熱意とをもつて疎開先の気候風土に即応した鍛錬養護を実施して闢達強靱なる心身を錬成するやう疎開学童の保健指導を切望してゐる

一、受入側地方庁において考慮すべき事項  
(イ) 地方の医療、保健制度の諸施設、各種関係団体を積極的に協力せしむること

- (ロ) 診療所などの施設を組織的に活動せしむること
- (ハ) 食糧、燃料などの需給に留意すること
- (ニ) 地元の保健状態とくに伝染病に関し措置を誤らざること
- 二、疎開側地方において考慮すべき事項
  - (イ) 学童の保健指導（疾病事項などの発生時にとるべき処置）
  - (ロ) 訓導、寮母、作業員の健康状態に関すること
  - (ハ) 学童に関する月例健康調査実施
  - (ニ) 疎開後体力低下せる学童の養護措置
- 三、疎開先の寮舎に常備すべき応急薬、厚生省の協力を得て一般ではなかなか手に入らない医薬品をはじめ、ガーゼ、ほう帯、脱脂綿などの衛生材料、水枕、□囊、油紙などの医療衛生用品を学童万人に対し一組宛配給する

なほ厚生省もその徹底を期し医師、薬品、防疫に関し亀山衛生局長から六日関係地方長官、医師会長、歯科医師会長に左のやうな通牒を發した

一、医者は受入側の医師会の協力を待たねばならぬので府県医師会長に対策を要請するとともに学校に校医があると同様疎開寮附近の医師、歯科医を囑託とし常時指導してもらひ、無医村には従来行つてゐた巡回診療を強化して頻繁に廻つてもらふ

二、ジフテリア血清などの医薬品は疎開地附近の末端薬店にもこれを置くやうにする

三、環境の変化や集団生活のため伝染病が発生したら大事にいたるのでこの防疫対策として県衛生課員や寮舎教職員に舎屋の清潔消毒、炊事担当者の健康診断、伝染病患者の早期発見、飲食物への注意などを徹底すること

#### 四三 疎開学童の到着—浦富町—

一九四四年（昭和一九）九月二日（3画）

純朴な町民に迎へられて

集団疎開学童ら入県

神戸市長田校 先発隊浦富町に疎開

決戦は日一日と迫りつつある

僕達も私達もこの大戦を勝ち抜くために一日も早く疎開して鬼畜米英撃滅に微力乍らも協力しやうと愛国の熱誠にもえたつ幼き神戸市林田区长田国民学校児童先発隊

七十九名は去る十日田村校長をはじめ水木、笹倉、佐治、山田の四訓導、山野、磯田の両寮母、その他父兄後援会から二名、母の会から一名の各指導者に引率されて午後三時四十八分本県に受入れる学童集団疎開の先陣を切つて雄□岩美郡に到着した

この日同駅には一行を受け入れる浦富町の城戸町長、水原国民学校長のほか岩美地方事務所谷本視学等の出迎へを始め浦富国民学校児童約三百名がこれら母の手を離れてはるばる異郷に疎開する都会のヨイコ達を迎へるため列車到着の一時前から駅頭に集り今か今かと列車の来るのを心待ちしてゐた、かくて午後三時四十八分列車は岩美駅構内に滑り込んだ学童達は皆一斉に見知らぬ友に対して、心から歓迎の万歳を送つた

やがて出迎への男女学童整列の前に足並も軽く男子は白に黒線の運動帽とゲートル女子は白の登山帽とモンペに身を固めて駅頭に整列田村長田国民学校長の感謝並に初対面の挨拶に引続いて疎開学童代表永岡天城君（六年）の「皆様お出迎へ有難度うございますお世話になりました宜敷く御願ひ致します」の挨拶があつて後、早くも迎へる者迎へられるもの互に語りひ疎開学童の荷物は迎への学童の手に移され宿舎を指して秋風かをる稲田道を行進してゆかくして宿舎に充てられた浦富町竹間、片山両旅館前に到着した学童達は今後浦富の氏子として土地に親しむため荒砂神社に参拝、眼下に見降す海岸の風景を絶賛しつゝ男子五十一名は七班に分れて竹間清風館に女子二十八名は四班に分れて片山観潮楼にそれぞれ旅のつかれをいやすことになつた

なほ本県下最初の学童集団疎開に対し疎開者側と受入側の感想をきいてみると

田村校長（神戸市長田校）  
戦局が激化する度に、この問題も重大急務となるのですが当校と致しましては折よく鳥取県の御世話になる事になりました処浦富町長さんをはじめ校長先生また町の方々が色々とお骨折下さつてこれ程嬉しい事はありませんこの上は児童らが一日も早く土に親み町の人々とも親しみ当地の者と変らないやうになつて一生懸命勉強して呉れることを願つております

永木訓導（神戸市長田校）

今般この大任をお受け致しました事を光栄と信じてゐます、授業の方法も色々考へる所もありますが当地の国民学校と出来るだけ協力連絡し水原校長先生の御指導に従ひ同道されました笹倉、佐治、山田各先生とも相談して授業のかたはら増産にも力をいれたいと存じてをります

市橋明君（長田校初六）

出発する時、父や母が鳥取に行つたら体を大切に一生懸命勉強をなささいと



言はれました私は父や母のそばを離れて来て少しもさびしくありません今日駅まで迎へに来て下さいました学校の兄さんや姉さんと仲よくして一生懸命勉学に励む積りです

#### 四四 受け入れ態勢について―県視学・浦富町長の談―

一九四四年（昭和一九）九月二日（3面）

受入態勢は万全

#### 谷本県視学

遠地からわざわざ来られたにもかゝらず学童達が皆さびしがつたり逃げて来たといふやうな様子のない事は本当に嬉しい事です、授業の方は取あへず十二日ごろから始めて戴く積りです授業の内容は当地の校長先生の指導もあるでせうが一応県の方針によつて授業場は分教場を建前として実施し出来るだけ国民学校（国民学校）た青年学校その他宿舍等を使用し便宜をはかる、訓導は相互に兼任しあひ疎開学校の教育に万全を期したい

#### 城戸浦富町長

疎開に対する野菜対策は郡と協力し本庄、東、福部村の一部から配給を受けることとなつており米麦の規正は本県の指令に基き配給するが冬期間における野菜の補給は少々むづかしいと思ふので現在既に南瓜等貯蔵の出来るものは乾燥する等して万全を期してゐる、今日の処は予め南瓜五百三十貫を用意しておいたから腹一杯食べて戴きます

#### 四五 疎開学童歓迎式―浦富町―

一九四四年（昭和一九）九月二日（3面）

きのふ歓迎式

なほ昨十一日午前九時から疎開学童歓迎式を浦富国民学校で開催、城戸町長、水原校長、学童代表の歓迎の挨拶に引続き田村校長、後援会代表、母の会代表、疎開学童代表の感謝の辞があつてのち西尾岩美地方事務所所長の祝辞があり滞りなく疎開受入を

終了した

（写真は青少年国旗を先登に浦富町へ疎開の長田校学童）

#### 四六 疎開学童の到着―東伯郡―

一九四四年（昭和一九）九月二日（3面）

臉に溢る感謝の涙

子供は嬉々、父兄よ御安心あれ

学童集団疎開東伯人の風景

勝ち抜くために勝つ日までちつと唇をかんでお父さんやお母さんに別れはるる神戸市から本県に入る疎開学童達の第一陣は十日因幡部をトツプに十一日朝には東伯郡に約一千名何れも特別仕立の臨時列車で元気一ぱい無事到着した、十日夜七時半兵庫県を立つて一夜を車中に睡つた学童達が夜のほのぼのと明け染めた頃眼に映つたものは美しい日本の雄大な景観だつた、緑の山、碧い海、田園に出てゐるお百姓や各駅の人々も皆手を振り万歳を叫んで歓迎してくれた

七時五十六分松崎に下車した神戸千歳校の学童二百七名は駅前山と積まれた梨を見て思はず歓声を挙げた、八時十分上井駅に列車が入るや待ち構へた婦人会の小母さん達がお茶の接待に馳けつけてくれた、関金に向ふ九十九名（川池校）三朝温泉への学童三百七十四名（池田校百六十九名、室内校百六十四名）は下車するとこの猛烈な歓迎にあつて面喰つてしまつた

ハンカチを目に当て学童にお茶を注ぐ婦人会の小母さん達を不思議な眼で見る程明朗で賑かなそして元気一ぱいの学童達である

「御覧なさい、こんなに地元の小母さん達があなたをお迎へして下さいさるんですよ、さあ有難うを申しませう」

池田校々長山田鹿之助先生の目に感謝の涙がチラツと光つた

「これは上井町婦人会の贈り物です」

やがて六台のトラックに乘移つた時四箱の二十世紀梨が積まれた車は三朝川の清流に添つて三朝街道を突走る間もなく山狭に赤い屋根が見え美しい橋が見える温泉街の入口には全村挙げて婦人会員や村民や地元の三朝校生徒が出迎へた

「戦争には勝ちますよきつとねきつと」  
思はず叫んで涙をポロポロ流しながら車にかけよる婦人もあつた「鮎だ」御影石の橋

上から清流をみて叫ぶ学童「川の中にお湯がわいてゐるよ」「大きな家だなあ」今まで抱いてゐる不安も心配も完全に消し飛した、学童達は大喜びではやし立ててゐる、やがて指定された大橋、岩崎をはじめ各一流旅館に入った部屋に入るやいなやもう荷物の中からゲームや玩具を取出したり雑誌を持出してゐる児童達である。

「良い所だらう」と問ふ記者に答へて「いいなあーちつとも帰り度くないよ」とにつこり笑ふ児童達「お母さんも連れて来てあげたいね」と思はずついて出た言葉にはつと顔を見合わせたやがて「ワツハツハ」とこよう笑する児童達にはもう微塵の暗さもなければ感傷もない、無心な童心は今逞しく戦つてゐるのだ

やがて荷物解きが始まつた、婦人会の小母さん、宿の小父さん、果ては湯治客まで飛出してお手伝ひだ、昼食の太鼓が鳴る「おや豆の赤い御飯だ」嬉しさうに叫ぶ声にお手伝の婦人達がまた泣きさうな顔になる、地元婦人会の心からなる歓迎の赤飯にうまさうな二十世紀梨が二つ宛食前に並んでゐる、感激した山田池田校長は記者をおさへて「こんなに歓迎されるとは思ひませんでした、このことを一刻も早く父兄達に知らせ喜んで貰ひたい心で一杯です」と語るのであつた

#### 四七 疎開中の学童—三朝村—

一九四四年（昭和一九）九月二三日（3面）

##### 疎開学童点描

学童達は無邪気だ「ウア！、御殿みたいなうちだな！」三朝温泉の各旅館に入った児童は、もー自分のうちに帰つたやうに朗らかだ、早速リクサクからゲーム板をもち出し玩具を出してやりはじめた愛児を□国に捧げて間もない岩湯旅館の主人知久馬惣平さんが羽織を着込んで

「ぼつちゃん、私がこのうちの親父ですよ、うんと無理をいつて下さいよ」

といふと二ツコリ笑つた学童達は

「ウンいふよ」

と答へて笑はせる

×

上井駅に、三朝温泉の入口に出迎へた地許の婦人会の人達はそのあまりにもいたいけな、そして明朗な姿にたまりかねて泣いてゐた、ハンカチを顔にあてておいおい泣く

婦人もあつた、その涙は悲しみを越えて、心から歓迎するいたわりの涙だつた、荷物のほども宿舍への案内もお茶の接待も丁度我が子へするやうに、それは美しい光景であつた、

×

湯治客の初老の夫婦がたまりかねて飛び出して来て学童の荷ほどきを手伝つてゐる（写真は上井駅の婦人の接待と三朝に入った学童達に手伝ふ人々及び宿舍に入つて喜ぶ学童達）

#### 四八 疎開学童の到着—淀江町—

一九四四年（昭和一九）九月二三日（3面）

地元の歓呼に迎へられ

疎開学童ら到着

神戸市中場校から淀江町へ

神戸市兵庫区中場国民学校から西伯郡淀江町に疎開する学童は十一日午前十時三十分臨時列車で到着したが駅頭には官民代表多数出迎へ、また駅前広場には国民学校児童はじめ日婦会員、一般町民等が待ち受けてゐる中を、還路の疲れも見せず疎開学童たちははじめて踏む疎開地の土に嬉々としながら駅前広場の受入式に臨み

「みなさんよくいらつしゃいました、何にもご心配はいりません、仲よくこれからいつしよに勉強いたませう」

といふ地元学童の心からなる出迎へ裡に直ちに各割当てられた宿舍に到着き、この日はゆつくりと休養、いよいよ十二日から地元学童と仲よくいつしよに通学することになつた

今回神戸から同町へ疎開してきた学童は、六年生男女六十二名宛及び、五年生男子四十八名計百七十二名で寮母六名と教師四名が疎開学童に附添つて来町今後学童と起居をともにするが地元からも国頭日婦支部長他一名が自発的に寮母として奉仕することになり、又宿舍としては不老園、港、開化、吾妻、富田屋の各旅館及び記念館の他家二軒を宛て、をり全町民の温い歓迎の中に順調に受入れを終つた

なほ疎開学童の荷物は先発隊の手により去る九日無事に送り届けられてゐるが、先発隊山本重郎氏は町民をはじめ地元学童たちの歓迎に感謝して語る

疎開地の皆様がほんとうに心の底からよろこんで迎へて下さるその□□はまことに感謝の外ございません、先発隊として疎開学童たちの荷物をひとまづ先に送り出したのですが、それが到着すると国民学校高等科男女児童□□□□□□で運搬をして滞りなく□□□□いたゞいたことは殊に□□□□思ひます

#### 四九 農民作家・古志太郎氏、疎開学童教化運動―高麗村・淀江町―

一九四四年（昭和一九）九月二十五日（二面）

疎開学童に心の糧

疎開作家を陣頭に教化運動

西伯郡高麗村翼壮では今回淀江町への集団疎開学童来着を機に疎開学童にあたたかい心の糧を与へようと先頃疎開して帰郷中の同村出身農民作家古志太郎氏を中心に疎開学童教化運動に関し協議進捗中である

なほこれが具体的打合せのため近く学童ならびに関係者側との協議を行ふ筈であるが、山陰を第二の故郷として疎開してきた学童たちに対し地方郷土史、伝説等の講話をはじめあらゆる方面から少国民文化啓蒙に乗り出すことになった

#### 五〇 厚生省が疎開学童医療衛生協議会を設置

一九四四年（昭和一九）九月二十九日（二面）

疎開学童に病気対策

厚生省では今回相川次官を委員長とする「疎開学童医療衛生協議会」を設置することになり十八日の次官会議に附議決定した、この協議会の狙ひとするところは保険、医療、薬品、防疫などについての疎開地の実情を中央で把握し、徹底した衛生施策に乗出さうとするものである、差当り疎開地の衛生状況を詳細に検討するため東京、横浜、両都市学童の受入れ県衛生課長を十九日東京に集め、第一回協議会を開催するほか二十六日には大阪二十九日には福岡で同様協議会を開くことになつてゐる

#### 五一 疎開学童の到着―倉吉町・赤碕町・浅津村―

一九四四年（昭和一九）九月二日（二面）

どうぞこれから仲良くして下さい  
倉吉駅頭で学童受入式

勝利の日まで童心も戦ふ……神戸市からの疎開学童最終陣四百五十余名が十九日朝、元氣一杯で東伯郡倉吉町、赤碕町、浅津村に到着した

去る十一日到着した第一陣の学童達からつぎつぎ寄越すうれしい便りに見知らぬ土地に明るい希望を一杯はらませ修学旅行のやうな明朗さとにぎやかさをのせて一夜長旅の疲労も忘れはち切れさうな元氣である

この日倉吉町では全町国旗を掲げて歓迎の意を表し駅頭には岸本地方事務所次長宮内倉吉助役をはじめ各国民学校学童、婦人会員達一千余名が

ようこそ、さアお待ちしておましたよ……と歓迎陣を布いてゐる去る十一日開金温泉に、疎開した第一陣の神戸市川池校児童がわざわざ四里の道を出迎へてゐる神戸市川池校三、四、五、六年生二百二名が尾家校長に引卒されて下車するや、早速駅頭で感激の受入れ式を行はれた岸本地方事務所次長、宮内倉吉助役の歓迎の辞について川池校尾家校長が

「大変な歓迎をして頂いて本当に有難う御座いました、どうぞこの土地のよい子に一日も早くなります様にお導き下さい」

と謝辞を述べ疎開学童代表として同校五年生佐本学君が、

「みなさん有難う御座いました、どうぞこれから仲よくして下さい」

と童心を輝かせながら挨拶をする学童の中には、ツリザオまで持つてゐるものもある、駅頭を埋めつくした婦人会員達は丁度わが子を迎へるやうに、この学童達をいたわりながら、やがて各宿舍へと案内した

なほこの日赤碕町には神戸市道場校百名、浅津温泉には同千歳校百五十名が、到着した、またさる十七日学童達の荷物が到着するや折柄の雨中を倉中生徒達が荷車をひき疎開して来る弟妹達のために奉仕し当日の十九日には婦人会の人達が温い情をこめて荷ほど等の奉仕をした上各戸から梅干を蒐集しました二十世紀梨七百個を寄贈したが上小鴨村池谷農園主も学童に……と同様七百個の梨を寄贈して感激させた

（写真は倉吉駅で疎開学童代表の挨拶）

## 五二 疎開関係者の座談会―三朝村―

一九四四年（昭和一九）九月二日（2画）

## 疎開一週間

三朝村で懇談会

地元の親切に感謝

しかし可哀さうという気持でなく、真直ぐ育て、頂きたい

勝つための学童疎開、神戸が好きでも父母の膝下が恋しくても日本が勝つためにはこの山村で頑張らうと東洋一のラヂウウム温泉三朝に疎開して来た神戸市林田区室内校及び池田校の学童三百七十四名は温い心と山紫水明の環境に抱かれてより早や一週間で過ごした、父兄に代る部落常会、母姉に代る婦人会の思ひ遣りは涙くましいほど親身で疎開のヨイコ達も

「田舎よりやっぱり神戸がいゝが僕達は戦争がすむまではこのヨイコになるんだ、まだこのお友達が出来ないがお母さんやおばさんとはもう仲好しになつてゐる、食べものは十分ですよ」

と都会の子供らしく口調はつきり、子供ながら人の情はちゃんと知つてゐる、だがこれら学童の援護態勢を完備するために東伯郡地方事務所では十八日午前十時半から三朝国民学校で関係者を集めて□□□□懇談会を開いた、出席者は

□□□□□□地方事務所上田総務課長、藤井三朝村長、岡本囀□□□□婦支部長、同村校長、三徳、旭両村農業会長、大□□□□□□田池田校長で□□□□□□

上田「まだ日数も浅いので色々行き届かぬところはあります、現在の状況はどう思はれますか」

山田「神戸では平均十日に一度僅かばかり野菜が配給されてゐたのでこゝでは予想以上豊富で感謝してゐます」

岡本「医者立場からいふと量は足りても栄養といふ点がどうかと思ひます、殊に脳が発達盛りだから肉でなくても豆類は十分補給したい、その点婦人会あたりが豆類の供出でなく抛出をするやう尽力して貰つたらどうでせう」

上田「それは私共の方です、手に配してをります、農家から一戸一合以上出して頂くやう御願ひしてをりますから近く集荷されるでせう」

村長「魚もこの節みなが食べないのでから無理でせうが、干物がときどき補給できないでせうか」

上田「今のところその点は見込がありません、どうでせう旭村あたりで牛肉の手配はしていただけませんか」

旭村「村に帰つて一度調査してみないとはつきり申せませんが一つ考へてみませう上田「虚弱な児童に牛乳の配給は考へていただけませんか」

三徳「旭村とも連絡して一日一升程度なら間に合ふかも知れませう校長「家畜飼育とか報国農場とかいふことも考へてみなければなりません」

は飼料の関係で見込みがありません、しかし土に親しませるためには農場といふ問題は実現したいものです」

大橋「各学校の報国農場で出来る野菜はなるべく疎開学童に配給したらどうでせう上田「それは結構です、なるべくさういふ工合にお願ひしませうしかし余り何もかも」

地元を物をたのむといふ考へはなるべく控へたいと思つてゐます日婦「婦人会としてはほんとに親御の気持で十分お世話したいと思つてゐます、さき」

ほどの豆類のことは早速相談して実現いたしませう大橋「現在野菜類の集荷は旅館組合で引受けてゐますがなかなか人手のかかること」

で、何とか村でも考へていただけませんか視学「それは作業員を嘱託として置くことになつてをりまして、百人に対して三人位」

の経費が予定されてゐますからその方でもうまく解決されませう、これは別の話ですが学童が病気になる場合は県から嘱託医に統制薬品を配給することになつてゐま」

す村長「冬期の対策として薪炭等の配給はどうでせうか上田「早急手配しませう、その他マツチ、□など日用品も県民並に配給されるはず」

ですが野菜のやうなもの一つ多種多様に考究していただきたいものです大橋「今のところ三徳、小鹿、旭、三箇村の協力で学童一人当り一日八十五匁の野菜」

を貰つてゐますが、なんしろ醤油や味噌が足りませんから□理といふ点に困つてゐます」

日婦「下駄や木履などは用意して来てゐられるでせうか山田「送るやうに手配はしてゐますが輸送関係でなかなかうまく運ばないかもしれま」

せん日婦「それなら下駄の□だけ県からお世話願へれば鼻緒はわたしたちの手で造るやうにしていいですが……」

上田「そこで児童の日常生活はどうでせうか山田「子供たちが全部寝てから私は寝顔をのぞいてみましたが、一、三日はなんとなく寝つきが悪いやうでした、一昨日あたりから安らかに、ほんとに安心しきつたや」

う」

うな顔付になつたので私はほつとしました、神戸に帰つたら御当地の御親せつな模様を一ぶしぢゆう父兄に報告して頂くつもりです

視学Ⅱ最後にお願ひしておきます何か学童に事故があつたら直ちに県なり地方事務所に早く連絡して頂きたいことです

かくて座談会を終了、山田校長は神戸へ帰途にいたが地元なり、県民に対して次ぎの如く感謝の辞をのべた

みなさんに親せつにして頂いて感謝の言葉もありません、たゞみなさんが可哀想だといつて梨をあたへたり、家に迎へたりして下さいますが、むろん有難いには違ひなひが、可哀想なといふ気持でなくこの勝ち抜くための非常措置といふ考へから御協力をいただければ結構です、それが学童を真ツ直ぐに育て上げる最善の道だと存じます

### 五三 疎開学童へ野菜の贈り物―三朝村―

一九四四年（昭和一九）九月二日（2画）

疎開学童に野菜の贈物

神戸から疎開して来た学童のうち七十名の宿泊所になつてゐる東伯郡三朝村大橋旅館に去る十五日のこと一人のお百姓さんが野菜を山の様に背負つて訪れた

戦争□勝つためとは言へ、少いさい生徒さん達がこんな田舎に疎開して来られたと聞いて、せめて一口づつでも食つて戴ければと思ひ持つて来ました、名前？そんなものは何うでも良いでせうこの奥の旭村の者ですよ

と持つて来た十一貫余の野菜を置いて、聞いても名を明かさずに立去つたが年齢は三十五、六歳のこのお百姓さんの話に学童達を始め村人達を感激させてゐる

### 五四 疎開中の学童―三朝村―

一九四四年（昭和一九）九月三日（2画）

青白い顔も黒くなつた

疎開学童の放課後

去る十一日疎開して来てから早くも旬日、馴れない言葉、目新しい環境の中にも戦ふ童心はスクスクと伸び今では来た当時の青白い顔も秋陽に照らされて黒くなつた

胸一杯吸ひ込む新鮮な空気と毎日浸るラヂウム温泉の効果に食欲もグングン増し寮母さんや先生をびつくりさせるやうになつた

こゝ三朝温泉に疎開した学童達は河鹿鳴く清流、たわわにみのる稲田の中に放課後の一ときは魚とり、イナゴとり等で□そがしい、もつとも来た当時の修学旅行のやうな気持は次第に薄らぎ夕暮の星空をみてはあはれ郷愁に涙ぐむこともある

「おうちから来るお手紙が一番うれしい」と語る童心だ、だがそれはほんのひとき、先生や寮母さんの温い指導と地許の新らしいお友達への激励に学童達の心は明るい

写真は温泉から上つてニコニコする学童、宿舎の前で大ニコニコの姿、新しい教室で負けないやうに勉強する学童達です、（三朝温泉にて）

### 五五 大日本教育会の疎開教育についての意見書

一九四四年（昭和一九）九月二日（2画）

疎開教育を統一

大日本教育会から意見書

大日本教育会では1ヶ月間にわたり関東、東北地方十三県下の疎開学童状況全般を具さに視察したがその結果は全体的にみて「良」であるが、部分的にはまだまだ批判修正すべき点が多々あると意見書を文部省および関係当局に差出したが内容の主なる点は以下の通りである

- 一、疎開側の代表機関を各県に常駐せしめられたい
- 二、疎開教育の具体的方針を速かに明示されたい
- 三、土地の学校と疎開学校との関係は一率でなく都市の分校か地方の委託が未解決である、指導監督の機構を確立すること
- 四、宿舎の設備などをはじめ速かに越冬対策を講ずること
- 五、作業員を増加するとともに手当の増加を考慮されたい
- 六、年二回ぐらゐ輪番に面会制度を確立されたい

## 五六 各都道府県に疎開受入協議会を設立

一九四四年（昭和一九）九月二十五日（2面）

### 疎開対策を強化

県に受入協議会を設立

帝都をはじめ大都市の人員疎開は着々実行されてゐるがこれを円滑に実施させるための重要案件の一は地方における受入態勢の整備と強化で、それには官民一致の協力が必要ならぬ、そこで防空総本部では今回新施策の第一として沖繩島を除く全国各都道府県に「疎開受入協議会」を設立、受入態勢の積極的整備と強化をはかることとなりすでに各地方において具体的準備中である

この協議会の会長には都道府県知事が当り会議員として輸送、教育、食糧、住宅、配電関係者、翼賛会、翼壯、婦人会の役員達も参加して各地方の事情に即した疎開者受入の具体的措置につき協議するものである、すなはちこの協議会の設置によつて生活の各部門にわたる地方官民の責任者が相より相助け疎開援助の具体化をはからんとするもの、その二は過般の閣議では「疎開受入指導費」として四百万円を第二予備金から支出することに決つた、これは受入側全国各市町村の事務費に充当される□<sup>（併カ）</sup>もので内務省はすでに各都道府県の割当額を決定、その使途は疎開してきた学童の机や椅子をはじめ家屋の供与に関する費用の一部、家屋修繕費などその地方地方の事情に応じて使用されるもので、受入態勢の強化に一層の機動性をつけることを狙ひとしたものである

## 五七 兵庫県学童疎開連絡協議会の設置

一九四四年（昭和一九）九月二十七日（3面）

疎開の連絡に兵庫県協議会

神戸市から本県への学童疎開はひとまづ段落を見たが兵庫県側と疎開受入県との間の円滑適正な疎開運営を期して兵庫県庁内に「兵庫県学童疎開連絡協議会」を設置、会長に成田同県知事あたり本県からは武島知事を顧問に、古城内政部長を委員に西垣視学を書記にそれぞれ委嘱したが右の初協議会は三十日兵庫県庁で開催される、なほ同協議会では疎開先の選定、学童割当の件、疎開先における校舎宿舍の件、教育養護の

件、物資配給調達の件、学童および物資の輸送等について協議する

## 五八 学童疎開協議会へ鳥取県内政部長が出席

一九四四年（昭和一九）九月二十七日（3面）

古城内政部長疎開協議会へ

古城内政部長は来る三十日神戸市で開催される学童疎開協議会に出席のため二十九日出発、一日帰県の予定

## 五九 疎開中の学童―赤碕町―

一九四四年（昭和一九）九月二十七日（4面）

神戸の学童

赤碕校へ疎開

東伯郡赤碕国民学校では、神戸市道場国民学校初三男五十三名、初四女三十三名が疎開入校した

去る十九日午前九時三十分着臨時列車にて竹一校長、担任の上木、末長両訓導、楠本保護者会長らに引率されて、男子は釣さを手に、女子は白鉢箸、非常袋といふ姿で元氣よく下車、駅頭の受入式後、婦人会の接待を受けて、一同天の神奈斐神社に参拝、神戸寮、佐伯寮、保育寮とそれぞれ宿舍に落ちつき旅の疲れを休めたが翌二十日十時、入校式後、特別教室改□の殺風景な教室で、早速授業がはじめられた

疎開のお友達の不自由は、われらもともにしやうとの暖い心から、教室なども同学年交替で使用、それに感激した疎開学童も、勝つまでは決して帰へりませんと、その意気込みを両親あての手紙にしたためて、竹一校長に託し、たくましい疎開風景を□出してゐる

## 六〇 受け入れ学童の食生活について懇談会―岩井町・浦富町―

## 岩井と浦富で疎開状況検討

一九四四年（昭和一九）九月二八日（2面）

岩美郡地方事務所では過般神戸市から郡内□疎開して来た集団学童の受入状況を検討して万全を期するため二十七日午後一時より岩井町で、同日より浦富町で両町受入学童の食生活に関する問題を中心に関係者が懇談会を開いた

## 六一 鳥取県青少年団が疎開学童指導要綱を発表

一九四四年（昭和一九）九月二九日（2面）

## 敬神愛郷の涵養へ

## 県青少年団から疎開学童指導要綱

神戸市学童の集団疎開は一段落を告げたがこれら疎開学童に対し受入地元では今後如何なる方針で指導して行くか等に関して鳥取県青少年団では次の如くこれが指導要綱を発表した

- (一) 疎開学童に対して皇国が当面せる戦局の実相と学童疎開の国家的意義とを正しく諒解させ徒に待避的気分陥ることなく各種の教養訓練を通して熾烈なる士気の昂揚に努める
- (二) 疎開地を新しき郷土として敬神愛郷の精神を養ひ時に地元少年団員と親和提携し同土僚友として進んで郷土の発展に□せしむる
- (三) 全生活を家庭的指導をもつて一貫し家庭を離れることによつて生ずる教育上の□陥を補ふとともに家庭を離れた感傷気分を一掃し如何なる事態にも動ぜざる強靱なる自律的精神の涵養に努める
- (四) 疎開地における大自然を活用して暢達せる精神、剛健なる身体鍛練を行ひ進んで疎開地における食糧、燃料等の生産手工品等の制製作を通じて全生活を生産化するとともに創意工夫を旺んにしその生活力を豊ならしめ戦力増強に挺身させる

なほ県青少年団では国民学校教育と相俟つて少国民の基礎的錬成を完璧ならしめると同時に地元家庭の協力を得て「家庭会」とも言ふべきものを設け家庭的親和の裡に土地の少年との親睦をはかり家庭を離れてゐる折々の淋しさを温かく抱擁しようとする

る嬉しい措置も講ずる計画である

## 六二 疎開学童の衛生問題について―鳥取県衛生課長の談―

一九四四年（昭和一九）九月二九日（2面）

## 疎開学童を健康に

## 諸対策語る草野衛生課長

疎開学童の衛生諸問題に関する中国、四国、近畿各府県主務課長会議は過日大阪市中心公会堂で開催されたが同会議に出席した草野鳥取県衛生課長は二十八日帰来して次の如く語る

- 集団疎開学童の防疫に関し種々協議したが疎開地の伝染病早期発見に努めると同時に炊事関係者の検便その他防疫的措置を強化することになった、又飲料水の防疫的措置を嚴重にし食中毒の防止、トラホーム、寄生虫の感染予防等についても関係者と協力してこれが予防に万全を期する、医療に関しては地元医師会と協力し医師会が全責任をもつて万全を期する筈である、結核の予防については従来の学校と家庭といふ二本建の生活様式から共同生活に切換へられたので特に相互間の感染発病を警戒し未感染者に対してはBCGの接種を行ふなど健康管理に万遺憾なきを期すると同時に栄養問題について関係者に充分□つて遺漏なき対策を講じたい、なほこれが医薬品については本省で支障なく配給される見込みが附いた
- 六三 疎開学童の宿舍、教育、食糧等について懇談会―岩井町・浦富町―
- 一九四四年（昭和一九）九月二九日（2面）

## 疎開学童も暫く辛抱を

## ―岩井と浦富―

神戸市長田国民学校の学童が岩美郡に集団疎開を実施して半ヶ月、地元の温き受入態度に疎開学童、訓導は感謝の日々を送つてゐるが岩美地方事務所では疎開側と受入地の宿舍、教育、食糧等の諸問題を課題に二十七日午後一時から岩井町、同日午後五時から浦富町の二カ所にそれぞれ宿舍を会場に膝を交へ、懇談会を開催した結果、教育

は目下実施中の二部制教育で地元学校の教室を利用し宿舍の施設については未だ不備な点が多いので地方事務所、地元で出来るだけ整備に努めることにし又食糧の問題については副食物の増配が要望されたが現在の蔬菜鮮魚の生産供出状況から推して要量通りの量を確保することは困難であり今暫く現状のまま辛抱して貰ふことになった、なほ日婦岩美郡支部では二十七日の同支部理事会で疎開学童の慰問品として郡内各町村各戸からもれなく餅一ケ、大豆ソラ豆を各一合宛供出することになったが豆類は一戸一合、郡内全町村を合すると七十石になる

#### 六四 疎開学童の衛生

一九四四年（昭和一九）九月三〇日（4面）

疎開学童の衛生

蔓延し易い皮膚病に注意

学校衛生

疎開地における学童の集団生活は清潔を第一とすることはいふまでもないことで特に皮膚病の予防にとめませう、時々明るい室で検査を行ひ、健康児童への伝染を防ぐこと、皮膚疾患中つぎのものはかり易いものです、シラクモは、しらくも菌といふ糸状菌が発生し、伝染力がつよい□□部に発生したものは灰白色の円形斑で明瞭な境界を有し、毛髪がぬけカユミを持つておます□□面の無毛部に発生するのは□□力□のうろこ□□を有する円形の白斑で境界がゆるかです、またゼニタムシといふのがあります、中心部は赤色のうろこ□□を有し周□□に小水泡が出来ます、これは次第にかわいてうろこ□□となり、落ちると後はかつ色になり、また次第に水□□が出来るの□□す

肉眼でもみえる□□セン虫が発生すると堪えられない口かゆい、耳の間、腕の関節に多く出来、かくために湿疹、毛□□炎等になり易い最も多いのは湿疹で、始めは皮膚が紅くたゝれたやうになり、次第に小さい水泡やうのうほうが生じ湿潤しかさふたが落ちて治療することもありますが、慢性になり易い、つぎに治療法ですがしらくもやたむしは軽い中に治療し慢性にならぬやうに注意します、温湯で患部をせんぜうし、稀ヨードチンキ、タールバスタ等塗ります、ひぜんは硫黄が一番有効で、衣服や寝具等を熱湯か日光で消毒します、湿疹は急性と慢性とあり、慢性のものは栄養不良者や神経質体質のものに多い、ひどいものには亜鉛華オリーブ油をぬつてホーサン水のをん法をする、平常皮膚の清潔と栄養の調節、全身錬磨が予防の根本です

#### 六五 疎開地に紙芝居を配布

一九四四年（昭和一九）一〇月二日（2面）

疎開地方に新作紙芝居

文部省では学童の集団疎開先における図書、映画、幻燈□盤など文化施設について単に疎開学童のみを対象とせず地方の児童をも含む方針で目下それぞれ立案中であるが、去る十六日全紙芝居業者をもつて組織する印刷紙芝居協会では既製の紙芝居三百六十組を文部省に寄贈したので近くこれを全国の疎開地に配布するとともに今後文部省と同協会協議のうへ紙芝居の内容を審査し疎開地地方学童向けのものを作製することになった

#### 六六 疎開学童の教育方針・食糧・衛生など―鳥取県内政部長の談―

一九四四年（昭和一九）一〇月三日（2面）

疎開学童協議会から

細く長く協力を

古城内政部長帰来談

去る一日兵庫県庁で開かれた学童集団疎開受入状況に対する協議会に出席の古城内政部長は二日帰来してつぎの如く語る

疎開受入地の教育方針、食糧、衛生等の諸問題について要望があつたわけだが教育の方法については大体分教場主義で行くことにしてゐる然し実際は地元の学校が全面的に協力せねばならぬ問題で疎開学童を他県の子供と思はずに全力を懸けて援助せねばならぬこの点特に珍らしい間だけ持てはやされることのないやう細く長く地元の学校や町村民に協力して頂きたいといふことだつた、本県は他の疎開地と違って旅館や個人住宅の多いことが特徴であるが健康衛生の点では現在の疎開地には無医村がなく目下の処学童の健康には心配がない、然し集団生活を営むのであるから伝染病等環境衛生の点には注意せねばならぬ、今のところ疎開学童には勤労奉仕を実施して居らぬが今後は地元の学童と同様に勤労奉仕も実施



する、食糧の点は神戸の各家庭よりも大体に疎開地の方が良好ではないかと思ふ、なほ今年の冬は燃料に相当困るではないかと思ふので国民学校高学年の学童を動員して自家製炭を実施し疎開学童に温い冬を迎へさせたいと考へてゐる

#### 六七 床屋さんの理髪奉仕―淀江町―

一九四四年（昭和一九）一〇月四日（3面）

疎開学童理髪、床屋さん奉仕

米子市の理髪屋さんは公休日を利用して疎開児童の理髪奉仕することになり先づ二日淀江町の疎開児童に奉仕しヨイコ達を喜ばせた

#### 六八 文部省内に疎開学童対策協議会を設置

一九四四年（昭和一九）一〇月五日（1面）

学童疎開に対処

協議会設置決る

万全の措置を審議運営

学童集団疎開は九月末をもつて一応完了し各地方とも大体順調に進捗し既に四十一万余の児童は教職員指導の下に疎開地において集団生活を行ひつつあるが、政府は疎開実施後の状況ならびに臨時議会における熱心な要望に鑑み集団疎開の一層円滑なる運営を図るため食糧、医療、寮舎などについてはそれぞれ適宜の措置を講じて来た、しかし冬期対策をはじめとし幾多緊要な対策の実施を必要とするのでこれか施策を強力円滑に推進するためには関係各省および関係各府県と緊密な連絡と不断の協力を一層必要とするので九月二十九日の閣議決定により文部省内に「疎開学童対策協議会」を設けることとし四日情報局より疎開学童対策協議会規程を発表した、しかしして委員長は文部大臣、委員は内務、文部の政務官をはじめ関係各省高等官十九名がこれにあたり五日には第一回疎開学童協議会を開催するが、既に幹事会は三日開催され

一、冬期対策に関する件（寮舎、食糧、燃料、および衣料など）

一、学童疎開運営に関する緊急対策（附添職員の待遇改善）  
一、学童疎開の視察に関する件（関係官庁の合同視察）  
の緊急議案三件を決定、第一回協議会に提出決定の上は関係官庁協力して迅速にこれを具体化すべく疎開学童に対する諸般の施設は今後急速に整備されるものとみられる

#### 情報局発表

今般政府においては学童疎開後の実情に鑑みこれが徹底的改善を図るため関係各省協力し強力かつ総合的な対策の運営を図る目的をもつて左の通り「疎開学童対策協議会」を設置することとなつた

#### 疎開学童対策協議会規程

第一条 疎開学童対策協議会（以下本会と称す）は疎開学童に関する対策の総合企画

および連絡に関する事項を審議するをもつて目的とす

第二条 本会は委員長一人および委員若干人をもつて組織す

第三条 委員長は文部大臣をもつてこれに充つ、委員は関係各庁高等官につき文部大臣においてこれを命じまたは委嘱す

第四条 委員長は会務を総理す、委員長事故あるときは文部大臣の指名する委員その職務を代理す

第五条 本会に幹事若干人を置く、文部大臣においてこれを命じまたは依嘱す、幹事は委員長の指揮をうけ庶務を整理す

第六条 委員長必要ありと認むるときは委員外の学識経験者に意見を聞き、または会議に出席して意見を述べしむることを得

第七条 本規程に定むるもの、外本会議の運営に関し必要な事項は委員長これを定む

#### 六九 医療挺身隊が疎開学童の集団検診を実施

一九四四年（昭和一九）一〇月五日（2面）

疎開学童の保健へ

医学博士会で挺身隊結成

寒さに向ふにつけても、疎開学童の親達の心配は子供の病氣のことである、当局とし

でもその対策として医師□囑託とし無医村□は日□医師会や地方医師会□協力□請ひお医者さんの挺身隊を組織して巡回診療を行ふなどの方法を講じ□ある、日本医学博士会□□同会々員約八千中□ら医療挺身隊を結成、近く疎開学童の集団検診巡回医療を行ふことになり、その実地調査のため来る九日各地に調査隊を派遣し、先づ疎開学童に多□病気の種類と必要な薬品□調査し今月中に同会に報告、協議会を開き遅くとも本月下旬博士挺身隊が各地回診□着手する予定である

### 七〇 疎開学童自ら机・椅子を製作—倉吉町—

一九四四年（昭和一九）一〇月六日（2画）

机造る疎開学童

二部教授解消に自助自奮

倉吉町に到着した疎開学童は机や椅子の不足から成徳国民学校で午後授業をうけてゐるが、一日も早く普通授業にかゝらうと不足な机椅子の製作に自から取りかかつたこれに対して新しいお友達も応援をして工作室に響くつちの音も遅しく勝ち抜き学童の意気を示し彼等の希望通り普通授業に入るのも近い日であらう

### 七一 鳥取市の縁故疎開児童

一九四四年（昭和一九）一〇月七日（3画）

学童の縁故疎開

鳥取市は激増

鳥取市では学童の集団疎開受入は行はなかつたが縁故疎開学童は日毎に増加し去月三十日現在で四百八十名受入、それぞれ市内各国民学校で元気に勉学してゐる、なほ疎開学童は京阪神地方の学童が多数である

### 七二 学童集団疎開に関する打ち合わせ—鳥取市—

一九四四年（昭和一九）一〇月七日（3画）

### 学童疎開関係協議

県教學課では学童集団疎開に関する関係方面との打合せを今七日午前十時半鳥取市東町県教育会館で開催するが協議事項は学童の保健衛生、経費、査察指導などで疎開事情、受入状況に付ての視察事項としては庁舎の施設に關し改善整備すべきものならびにその資材、数量に関する事項、校舎（授業場）において施設の改善すべき事項、生活物資の配給状況および配意改善すべき事項、教育上特に改善すべき事項、給食の状況その他である

### 七三 受入学童取扱対策懇談会の報告—東伯郡—

一九四四年（昭和一九）一〇月一〇日（2画）

土地に馴染めよ子等よ

東伯郡疎開学童対策懇談会報告書

神戸市から東伯郡へ疎開して来た学童は早くも一ヶ月、漸く土地の風習、方言にも馴染み各村民の温い人情に抱かれながら第二の故郷でそれぞれ必勝の闘魂を練勝してゐるがこれ等の学童を受入れた東伯地方事務所では今後の取扱対策に万遺憾なきを期するため三朝を初め各疎開地に於て「受入学童取扱対策懇談会」を開催して来たが去る五日倉吉町を最後に一応これを打ち切り懇談会席上提出された各方面の問題を基礎に具体策を考究中であるが今こゝに郡内疎開地区を通じて採り上げられた共通問題及び希望等を報告すると共に今後関係各町村民の協力指針としよう

△食糧関係 農産県鳥取の台所であるだけに東伯郡には相当余裕もありその上疎開地附近町村農業会の熱心な協力振りが非常な強味で現在のところ先づ充分であらう学童達も主食副食物共に満足してゐるやうだが魚介類の配給が少い憾みはある、しかしこれに全県のことと止むを得ない実情でもある

△オヤツ 各町村とも婦人会の人々が母親代わりの温い気持からいろいろオヤツなども気をつけて特に蛋白質補給の眼目から豆類を一戸一合つつ持ち寄り学童達を大いに喜ばせてゐるが、さすが梨の鳥取県、今までは廿世紀のオヤツを与へて満足させてゐた、これからも栗、柿など当分は不足ないであらうが東伯地方事務所では現に農村に呼びかけ学童用干柿の製造を要望してゐる

△冬期対策Ⅱ初めて迎へる雪国の冬、学童達も相当興味を持つてゐる様であるが第一に薪炭不足が憂慮されてゐる、地方事務所では婦人会、翼壮、青少年団等の労力奉仕を得て自家製炭を行ひこれが解決に當るべく計画を進め近く倉吉町及び八橋町で関係者の協議会を開催、学童達の耐寒料だけは確保する筈である次に履物であるが高下駄、長靴等入手困難で或る村では自家用材を據出して製造中のところもあるが長靴は各方面の奔走にもかゝらず現在のところ見込み薄で神戸市でも文部省当局に対し至急配給方申請中である

△授業Ⅱ地元国民学校を利用して午後授業、二部授業等を実施してゐるが具体的に自習、学習を実施するので成績は急速に伸びつゝあるといふ嬉しい結果を得てゐる、しかしこの上學童達の希望は一日も早く普通授業に入ることである

△娯楽Ⅱ童心を健全に明朗に逞しく伸し育てるため精神的健全娯楽が必要だ、各宿舍ごとに交換演芸会や紙芝居に興じてゐる現在の学童達だがつと永続的性を持つ慰安施設が要望される、地方事務所では輪読会、畜音器の設備、その他簡単なゲーム類の購入等考中であるが一番好□□を得るのは地元学童と一日も□□く馴染むことが必要である

#### 七四 父兄の単独面会お断り―東伯地方事務所の談―

一九四四年（昭和一九）一〇月一〇日（2面）

買出し兼て面会

愛児のために絶対お断り

東伯地方事務所では集団疎開学童の諸対策に万全を期するため先般来各地疎開先に附近農業会長、町村長、学校長、旅館組合等を招いて懇談会を遂げつつあつたが去る九日の倉吉町懇談会を最後として一応打ち切り各所の総合意見を取纏め疎開学童取扱に關する具体的対策を樹立することになつたが、同事務所では左の如く語つてゐる

疎開学童達も大分土地に馴れて来たやうだ、一日も早くその土地に馴れることが一番大切なのだが困るのは父兄の秘かに来る単独面会だ、華美な服装をした母親や姉達が出しといふ目的を兼ねて面会に来ることだ、疎開学童は決して物見遊山に来てゐるのではない、この施策は全て戦力増強の一環である、然るに買出しを兼ね、禁止の単独面会に来る父兄等のあるのは直に遺憾である、戦力増強を阻害するばかりでなく児童の心理にも決して好影響を与へないと思ふ、愛児の日常が心配なのは親として無理からぬが一担お預りした以上我々が絶対責任を持つて

育ててゆく決心である

#### 七五 疎開学童への医療品の配給

一九四四年（昭和一九）一〇月一〇日（2面）

医療用品は一括増配分から

集団疎開児童の保健衛生に關しては厚生、文部両省の当局者によつて鋭意考慮されてゐるが学童の医療および保健指導ならびにこれに要する医療品の配給については集団疎開学童向けとしての配給は特別の場合を除きこれを行はず今後県として毎四半期の割当数量中に増配を受ける予定である

#### 七六 疎開学童用木炭を各郡に割り当て

一九四四年（昭和一九）一〇月一〇日（2面）

疎開学童用木炭を割当

冬は駆足でやつて来るⅡ山陰で初めての冬を迎へる集団疎開学童の防寒保温施設に關しては甚だ緊切なものがあり県ではこれら学童の保健衛生の万全を期して防寒保温用の木炭は県民の温い協力によつて自家用薪炭の一部で確保して貰ふことゝなつた即ち学童一人当り一ヶ月五キロを目標とし温泉地では大体その七割程度となる各地方事務所では木炭生産町村に対して割当て学童、青少年団、翼壮、婦人会、その他の勤労奉仕によつて遅くとも十一月末までには製炭し供出の木炭に対してはこれに要する費用および相当の代償が支弁される、各郡に割当られた生産量は左の通り

岩美二・五トン、八頭一・二・五、気高四、東伯九、西伯四、日野三五、計□□五ト  
(六カ町)

#### 七七 学童受入対策総合連絡会議の開催

一九四四年（昭和一九）一〇月一〇日（2面）

## 学童受入対策総合連絡会議

学童集団疎開受入の万般に関して県では関係地方事務所長、町村長国民学校校長並びに庁内関係各課長と連絡打合せを為すため県立高女で十日午後一時から五時まで打合会を開催する

## 七八 疎開教育の今後—東京帝大教授・海後宗臣—

一九四四年（昭和一九）一〇月二日（2面）

## 疎開教育の今後

海後宗臣

学童集団疎開は一応完了し、幾千万の学童達が全国数千ヶ所に急速な展開をなした、疎開教育建設をばい介として都会と地方とが結びつき全国教育界に新しい課題を与へてゐる、この際□□完了後の状況を基礎として疎開教育に積極的な建設性を附与し、ともすれば消極□□を伴ふ教育を□□推進せしめねばならない

◇

疎開教育は多数の児童を親の膝下より引き離して□□生活（集団的）を営ましめる、この事態は父兄に新たな問題を提供した、戦時下にあつては児童も単なる親の子ではなく、家の子供でもなく、実は国に捧げた子であるといふことが疎開学童父兄に指示された、子供は家を想ひ親を募つて□□心（母性）にかられはするが、それを仰へて次第に逞しい心根を培ひ集団の力によつて立ち上つてゐる、戦時下の学童は親の下を離れても生きぬいて立つ力を与へられつつある、これを育成して彼等が将来に何をなし遂げるかを待□□しつ□□大な児童□□を今日の□□が□□□□りともたねばならぬ

◇

疎開教育は大都市においてはみられなかつた新しい教育環境へと児童を移した、この環境即ち地方生活へ潔くその根を下させ、土地の中からまだ吸収し得なかつた栄養をとらせねばならぬ、何時までも疎開地のお客分として宿舍に閉ち籠つた生活指導は早く切り換え地方生活そのものの中において児童を育てねばならぬ、今特に収穫の秋である、教科指導や宿舍訓練にも努めねばならないが、児童をはだしにしても秋の生□□□□り込んで働かせ、その中から地方生活への結びつきや都会で□□かくされてゐた生活感に馴れさせることが□□要である、学童が自から消費する野菜や冬を迎へるに当つ

ても薪炭などについても許される限りこれに学童の実践を参加せしめて準備し、宿舍の中に必需品の配給を待つてその量の少き□□嘆せしめてはならない、地方の自然や社会が生命のある学習材料を提供して都会学童の教育内容再編成□□待つてゐる、新しい環境における学行一体が学童の前に素地のまま展開されて教師の手□□待望し、あらゆる角度からの動員を望んでゐる

◇

疎開教育は教職者に対しても全□□新しい経験を与へてゐる、その中で重大な意□□をもつてゐるのは教室の教師が新しい生活教育実践者となつたことである従来、学校の基底における生活教育を問題としたが、疎開は学童の生活全体を教師の掌中に委ねた、児童生活の全体を掌握したのでそこにも教職者の新しく優れた風格を待望する、教師が生活編成としての位置についた、都会の教職者が施設の不備な場所、教科指導をなす□□□□一苦労であるがその上に生活編成者として技術が期待されるのであるから二重の苦労□□ある、これを貫くには都会地における以上の苦心を必要とする、しかるに風格を具備することが至上原則であり、その努力の中、疎開教育を積極化する根拠力が潜まされてゐる、このやうな疎開教育の積極化万途を実現する受け入れ県の文教当局および受け入れ地元学校教職者が、疎開教育の真義を把握し、これが単なる逃避でなく、教育建設力□□発揮になつてゐるといふ事実を理解すべきである、この理解の上に立つて疎開側教職者および学童と結び合ひこれを□□かに育成し戦時教育体制の確立に資すべきである、受け入れ側教職者が自ら学校、学童とのみ重点をおくなら、今次の措置はその成果が得られないことになる（筆者は東京帝大教授）

## 七九 学童の米配給量の引き上げ

一九四四年（昭和一九）一〇月三日（2面）

## 疎開学童に朗報

食ふこと寝ることに万全

集団疎開学童に嬉しい朗報——鳥取県では疎開学童のうち十歳以下の児童に対しては従来一日配給量の米一合九勺だったがこれを十一歳以上の学童配給量と同様に二合八勺まで引上げることになつた

×——×

また疎開学童の宿舍、教場等に必要な資材も既に木材百二十石、釘四十八樽を出して

みるが今後さらに木材百石、釘も出来るだけ配給する

×——×

なほ日婦県支部では疎開児童の冬期食糧確保に備へるため大豆の各戸一握献納運動を全県的に展開する

八〇 疎開地の売薬店に医薬品を配備

一九四四年（昭和一九）一〇月二日（2面）

疎開児童へビタミン剤

厚生省では疎開児童の衛生対策の完璧を期して疎開児童衛生対策協議会を設置、医療の徹底と□薬の配給を行つてゐるが、冬を迎へるのでチフテリア予防注射を全疎開地売薬店に用意するとともに糖衣ビタミン錠（ビタミンAT五千単位）を十一月中旬から三月末まで毎日一人一球づつのませることになつた、また疎開地の薬店に葡萄糖注射液とピタカンファーを平均児童需要量の数倍用意させることになつた

八一 神戸市長代理、市議員一行が疎開児童の宿舍などを視察—東伯郡—

一九四四年（昭和一九）一〇月二日（3面）

神戸から視察

東伯の疎開児童

東伯郡に集団疎開の児童を視察するため神戸市から来鳥した神戸市長代理野田交通局長理事および同市々会議員一行は十八日倉吉着、直ちに成徳、明倫国民学校ならびに児童達の宿舍を視察、町当局に挨拶の後午後三時から三朝村大橋旅館において開催された、懇談会に出席、地元から東伯地方事務所係官、倉吉町当局三朝村当局係員が出席して神戸市側より感謝の辞を受けたが席上取り上げられた主要問題はつぎの通り

冬期対策の重点は特に長靴でこれは結局神戸市から特配を申請確保して本県疎開児童に配給することになり、又配給米は一人当り三合三勺配給するよう要望あり  
大体近日中に実現する筈である

八二 疎開児童の冬季対策—吸入器酒精の特配—

一九四四年（昭和一九）一〇月二三日（2面）

疎開児童に吸入器酒精

集団そ開児童の冬対策として文部省では厚生省の協力により感冒などの発生に備へてそ開先宿舍に吸入□□□性アルコールを特配する、それは十一月□に少くも一宿舍に□□□□あるが、吸入器の□に□□□□これも目下□□である

八三 疎開児童に木炭を供出—東伯郡—

一九四四年（昭和一九）一〇月二五日（3面）

疎開児童に炭の温い手

東伯地方事務所では児童集団疎開の冬期採暖対策として児童一人当り五盥の割合で受入各町村が自家製炭確保をはかつてゐるがこの外に受入各町村では自発的に木炭二十俵宛を児童のために供出することになり児童援護の温い手が差しのべられることになつた

八四 疎開児童に慰問音楽会—淀江町・御来屋町—

一九四四年（昭和一九）十一月四日（2面）

疎開児童に慰問音楽会

郷土の童謡や唱歌で疎開して来たお友達を慰問しようと西伯翼壮では米子市就将校のヨイコ達と四日淀江国民学校を訪ね交歓慰問音楽会を開くことになつた尚十一日には御来屋国民学校で同様開催される

八五 老幼者好婦等の疎開実施要綱を決定

一九四四年（昭和一九）二月八日（2面）

老幼者妊婦等疎開を実施

空襲に備へてわが防衛態勢全し

本月十五日から

敵空襲に備へ政府は帝都をはじめ全国四大重要地域内における重要都をしていよいよ強靱なる防衛態勢を固むべくすでに実施中の一般人員疎開ならびに学童疎開と併行して今回新に老幼者、妊婦などを対象とする疎開を実施することとなり七日の閣議において「老幼者妊婦等の疎開実施要綱」を決定、来る十五日から実施することとなつた

今回の疎開対象は防空活動に従事し能はざる国民学校初等科の児童（一、二年生）乳幼児、妊産婦、老人（六十五才以上）および病者、不具、廢疾者などで成可く地方転出を勧奨し移転奨励金として該当者一人に対し二百円、二人以上の場合は一人増すごとに百円を支給する、但し奨励金は都市民税二円以下の世帯者、出征軍人遺家族、徴用者家族に限つて支給され一般人員疎開奨励金の場合と同様である

## 八六 女子医学徒が疎開学童の巡回医療健康指導に

一九四四年（昭和一九）二月八日（2面）

医学徒も動員

疎開学童の巡回医療に当る

文部省では医学徒を従来勤労働員から除外してゐたが今回適所に動員することに決定差当り女子医学徒を集団疎開学童の巡回医療健康指導に当らしめることとなり七日地方長官学校長などに通牒した

動員実施方針は女子医学専門学校二学年以上の学徒を二ヶ月以内動員、方法は学徒報国隊の特技隊として一隊二名づつの学徒医療隊を組織し予め文部省、厚生省で協議選択した疎開地に派遣する

## 八七 疎開学童の稲刈奉仕—淀江町—

一九四四年（昭和一九）二月九日（2面）

僕はますます元気です

淀江町疎開学童も稲刈

お父さんお母さん、ご安心下さい僕はますます元気です！淀江町に疎開した神戸道場国民学校の児童たちはいま大山々麓一帯に繰り展げられてゐる農繁期敢闘のうづまきに飛びこんでお礼心の一筋に稲刈奉仕をつづけてゐるが、都会育ちの弱々しさはさりと棄て、真黒い顔で洗足通ひ、体重も平均一キロ増といふ發育ぶりを見せてゐるが、このほど大山登山の時などは一人の落伍者もなく日に日に逞しさを加へてゐる、その附添先生の話によると—

十七日の日吉津神社祭礼の日には附近農家に二名宛迎へられ叔父さんや叔母さんの家へでも行つたかのように喜んで非常な歓待を受けました、日曜日毎に農家に遊びに行く時などまるでお母さんのところへでも行く様にはしやいでありますよ、この地方の美しい人情は疎開児童に集中されて有難い限りで日本一の疎開地だと思ひます、われわれ疎開児童は全く感謝一杯で日々を送つておりますがこの地を第二の故郷として頑張り通す覚悟です

## 八八 疎開学童の冬季対策を協議—岩美郡—

一九四四年（昭和一九）二月一六日（2面）

岩美郡の冬季対策

岩美地方事務所では来る二十一日岩井国民学校で疎開学童に対する冬季対策として食糧、薪炭問題などにつき協議する

## 八九 貴族院研究会が疎開地を視察—青谷町・倉吉町・三朝村・淀江町—

一九四四年（昭和一九）二月一六日（2面）

貴族院研究会で疎開学童視察

貴族院研究会学童疎開視察の鳥取班の一行梅園篤彦子、舟橋清賢子、藤井兼誼子の三氏は二十日午後東京出発、二十一日城崎町を視察して二十二日来県、午前中に気高郡青谷町午後は倉吉町を視察して同夜は三朝温泉に一泊、二十三日午前西伯郡淀江町を視察、午後松江市に赴いて二十五日まで同県を視察し二十六日帰京の筈

九〇 疎開学童に寄付金出—倉吉町—

一九四四年（昭和一九）二月二六日（2面）

疎開学童に無名の親心

倉吉町に疎開して来た学童達にせめて鉛筆一本つゝでもと去る十一日倉吉町を訪れ三十円を差出した一婦人があつたがこの人は東伯郡灘手村字上神の石鹿キシさんであることが判明した

九一 三島文部参事官が疎開実施状況視察のため来県

一九四四年（昭和一九）二月二八日（2面）

疎開視察に三島子来県

文部参事官三島通陽子は本県の学童集団疎開実施状況視察のため来る三十日午後八時五十二分米子駅着列車で来県、十二月二、二両日県内学童疎開地の諸事情を視察、三日帰京する

九二 学童集団疎開寮母練成会の開催—倉吉町—

一九四四年（昭和一九）二月二八日（2面）

疎開寮母講習

六日成徳校で

近づく冬に対し疎開学童の保健衛生の万全を期すため疎開学童を本県の気候風土に即

する生活訓練をなすにはまづ彼等の生活の指導者である寮母の知識見識を深め寮母としての十分な資質を備へさせるため県および神戸市の主催□十二月六日午前九時半より東伯郡倉吉成徳国民学校□において左の講師□よび講義題目により学童集団疎開寮母練成会を開催する

△寮における学童の生活訓練□教育課長□田憲次△寮における衛生一般と学童伝染病□衛生課長草野禎△本県の冬期の特質と学童保健□鳥取日赤病院小児科長中野□同

九三 学童集団疎開寮舎主代表者会の開催—倉吉町—

一九四四年（昭和一九）二月二八日（2面）

疎開寮協議

学童集団疎開寮舎主代表者会は県の主催で十二月四日午前九時半より東伯郡倉吉成徳校において開催され、寮舎の設備に関する件、炊事に関する件、冬期対策の件、その他について協議打合せを為す筈

九四 鳥取県の疎開受け入れ状況—三島文部参事官の談—

一九四四年（昭和一九）二月三日（2面）

受人状況は上々

—三島子、疎開学童視察談

本県の集団学童疎開状況を視察するため文部参事官三島通陽子、同事務官内藤三郎、同職鈴木亮三同藤井勲氏の一行は三十日夜来県一日西伯郡淀江町、東伯郡三朝村、二日東伯郡松崎村、気高郡吉岡村の疎開受人状況を視察したが三島参事官は語る

本県の疎開受人状況は非常にうまく行つてゐる、疎開の意味が都会の子供□逃避させることであつては無意味であつて文部省としてもこれを機会に強い身体をつくる鍛錬であるやうに指導してゐる、本県の疎開受人は分散配置が□く受入地□町村民も自分の子供のやうに熱心に御世話してゐる、牛若丸や坂田金時も山の中で鍛成して立派な体を鍛えたのだからその積りでこの集団疎開を禍転じて福とな

し日本人としての鍊成を積んで行くやう各方面の御指導を御願ひしたい  
なほ一行は三日午前十時六分鳥取駅発で帰京する

九五 疎開学童も製炭に協力―岩美郡―

一九四四年（昭和一九）二月六日（2面）

疎開学童も製炭に奉仕

岩美郡岩井町、浦富町に集団疎開してきた学童は他郷に初めて迎へる冬をしのぐために木炭確保に苦勞する附近町村の人々に協力、授業の余暇には炭焼きや木炭の運搬に努めてゐるが岩美地方事務所では遠く故郷をはなれて勉学にいそしむこれら学童に対し不自由をさせるのはしのびないといふ暖かい親心から附近町村の農家からゴム靴に代る「藁長靴」を供出せしめ、木炭も極力節減消費するため農村よりコタツを集めて楽しい正月に備へることになった、また郡婦人会では次の通り慰問品を贈ることになった大豆、黑豆、小豆、乾芋、ずいき、切干大根、つるし柿、勝栗、正月餅、カキ餅など

九六 疎開学童に下駄を配給―岩美郡―

一九四四年（昭和一九）二月六日（2面）

疎開者へ下駄

岩美地方事務所では集団疎開学童および附添訓導に対し戦時下駄を岩井国民学校に百一足、浦富国民学校に四十三足配給する

九七 疎開学童にこたつを配給

一九四四年（昭和一九）二月六日（2面）

配給

県では集団疎開学童用大和こたつ二百六十個を近く配給

九八 全国玩具統制組合が疎開学童へお年玉

一九四四年（昭和一九）二月二五日（2面）

疎開学童へお年玉

疎開地で初のお正月を迎へる全国疎開学童へのお年玉として全国玩具統制組合では予算八万円を組んで愛国カルタ、羽子板、千代紙、風船、縄飛道具などをよい子達に洩れなく贈ることとなり二十三日それぞれの学校宛に送付した

九九 疎開学童への冬期間の配給―東伯郡―

一九四四年（昭和一九）二月二五日（2面）

東伯郡万全

東伯地方事務所では疎開学童の冬期間における諸配給の万全を期し奔走中であつたが本月から来年三月までの配給案を作成した、それによると蔬菜類は一学童に対し一日百三十匁予備貯蔵用野菜同五十匁、計百八十匁、肉類並に鮮魚乾魚は十日間に一度十匁内外、蛋白質補給用として大豆一人十日間に一合、木炭は一学童月五キロ乃至六キロで地方学童に比して非常な豊富さである、又暖房用としてコタツ百三十三個が既に夫々配給されてゐる

一〇〇 疎開学童が野菜を栽培―淀江町―

一九四四年（昭和一九）二月三〇日（2面）

淀江校農業祭

西伯郡淀江町淀江国民学校に疎開してゐる神戸市道場国民学校児童は今秋来高麗山下の原野を開農野菜を栽培した結果、大根白菜等の出来ばえは非常なもので地元村民すら驚嘆して居り疎開学童も喜んでゐるが二十七日午前十時より淀江校講堂で農業祭を



挙行、地元関係者を招待してこのよろこびをわかつと共に神戸市の本校にも報告した

一〇一 疎開学童に木炭を供出―東伯郡―

一九四四年（昭和一九）二月三〇日（2面）

疎開学童のために製炭

赤碕校児童奉仕

東伯郡赤碕国民学校高等科男女児童は担任訓導のもとに廿六日から疎開児童のために炭焼奉仕を励行、荒天を冒して同郡成美村奥中村地内の山林を伐採してゐるが明日中に火入れが出来の見込みで疎開学童に温い正月を迎へさせる事が出来ると奉仕の児童も大いに意気込んでゐる

一〇二 疎開学童を元日に招待―淀江町―

一九四四年（昭和一九）二月三日（2面）

疎開児童優待

西伯郡淀江町ではかねて同町国民学校に疎開中の神戸市道城国民学校児童を来る一月一日各戸に二名宛招待し新年の喜びとともに味ふ事になった

一〇三 疎開児童の再疎開―東伯郡―

一九四五年（昭和二〇）五月二日（2面）

東伯の疎開児童宿替へ

東伯郡内の学童集団疎開受入地は三朝をはじめくら吉、関金、東郷、松崎、浅津、由良、八橋、赤碕の八箇町村となつてゐるが、今回さらにじん員が増加したので三朝の各旅館に収容してゐた神戸市の池田校二百五十名、室内校三百名全部をつぎの五箇所へ転配置することになった

なほ宿舎はいづれも寺院、民家などでこのほか東ごう、松崎、浅津の二箇所も近

く他の適地へ転地する予定である、池田校（小鴨、上小鴨）室内校（旭、西ごう、くら吉町上灘）

一〇四 戦災地の母子・学童を受け入れ―八頭郡・日野郡―

一九四五年（昭和二〇）六月三日（2面）

続々と来県

寮長に和尚さん

戦災地の母子、学童を護るため県では国の方針に従ひ神戸市をはじめ兵庫県下の尼崎、御影、魚崎、本山、住吉各地の母子と学童を受け入れることとなり二十日頃から八頭、日野両郡の寺院を寮として受入れ寺院住職を寮長に、庶務係数名を疎開者の中から選び他に作業員数名を受入地元から斡旋してこれが疎開受入れに万全を期する

一〇五 武庫郡からの集団疎開の受け入れ決定―八頭郡町―

一九四五年（昭和二〇）六月三日（2面）

兵庫県から八百名

八頭郡への疎開学童

学童の集団疎開受入れに成果をあげてゐる八頭郡では本月下旬から七月上旬にかけて兵庫県下本山第一、第二国民学校の学童五百三十五名、同住吉国民学校学童二百七十名、計八百五名を受け入れることとなり目下宿舎に充てる寺院、公会堂、青年会館などの修理その他整備に万全を期してゐるが受入れ町村は次の通り、尚現在若桜町に百六十名、智頭町百二十名、岡村に百名の神戸市二葉国民学校の疎開児童が地方民の慈愛にスクスクとのびてゐる

散岐、大村、用ヶ瀬、社、佐治、西郷、丹比、八東、安部、隼

一〇六 疎開学童が増産に協力―御来屋町―

一九四五年（昭和二〇）六月二日（2面）

名札なき「悲劇」

隣人愛に抱かれ土に帰る

疎開者受入地から

伯西地方の疎開者は敵機の空爆に依る緊急疎開者を始め闘ふため、勝ち抜くための一般疎開者とともに漸くその数を増し特に大阪、神戸方面が最も多くこれらは何れも米子駅前設けられた疎開者受入相談所を訪ひ大部分は大々縁故先に、その他の者は割当てられた疎開先に落付き何れも□い地方民の戦友愛に感激すると共に今更ながら敵撃滅の戦意を燃やしてゐるが、受入側の町村では警察、勤労動員署等密接なる□□の下に衣食住から職業の斡旋を行ひ何れも勤労に堪へ得る者は軍需工場や手不足の農山村への帰農を勧め増産に挺身せしむるやう努めてゐる

一面生活の援助として布団、かやの貸与を始め各種の便宜を図つてゐるが併し疎開者の中には非常時生活に入れ切れないものが絶無といへないのでこれに対しては速やかに戦時生活に切替へるべく指導してゐる

また淀江、御来屋町に疎開した神戸国民学校疎開児童三百余名は目下村の人達が懸命の麦刈、田植の真只中に飛び込んで、をぢさんお手伝ひ致しませうと、慣れない手つきで麦刈や田植、苗運びに菊水の旗印も鮮かに敢闘増産に涙ぐましい協力を続けている

これら疎開児童達に対し西伯地方事務所では各村の国民学校からカヤの供出貸与をこふたところ立所に十八張のカヤが集りなほ続々供出されてゐるが、これら疎開児童達に対して都市にふみ留まつて敢闘してゐる父母の期待に副ふべくどこまでも大東亜戦争に勝ち抜くといふ強い信念を植付けるため行学一致の訓練に主力を注ぎ自分達の副食物を自給せしむべく指導を行ひ御来屋町では一反五畝、淀江町では一反三畝の畑を開墾せしめ勤労の尊さを体験せしめてゐる

◇

胸に名札を忘れんやうに―特に緊急疎開者は必ず付けて下さいと米子疎開者相談所では次の如く傷ましい実例をあげて警告してゐる、二十一日朝三十位のオシの友が米子駅に□ひ降りた、本人は手まねで鳥取の生だと言ひ、神戸市川口町\*\*\*の妻\*\*\*（三三）で敵機の爆撃に依り一人の子供を失ひ夫の郷里に帰るのだと分つたが途中所持金も罹災証明書も紛失其の他のことは究明しない、夫の本籍が八□付近といふので同相談所の戸田巡査が親切に食事を与へ取敢ず四時の上り列車で八□駅に送り届けたが、つい先日米子駅で六、七歳の幼児が□つておをり聞きたゞすと大阪の者

といふので更に色々調べた結果両親が米子へ疎開してゐることが判明、また同じ日に十歳位の子供がブラブラと鳥取から列車に乗り同様相談所に厄介をかけた

これらは何れも胸に名札を失念したばかりに起つた□□で必ず名札忘れんやうにと同所では要□<sup>要</sup>してゐる

◇

東伯郡内の疎開者へ極力帰農を呼かけてゐるが疎開者達も農具を斡旋してもらひたい、疎開して来たばかりの私達にはそれが無い、農具を借りようと思つても消耗品で修理も出来ないの□□るのも困難だと土に帰る希望を持ちながらも□□みも□□つてゐる、しかしこれも熟意で克服されて行くだろう

一〇七 熊本に疎開中の沖繩の疎開学童の様子

一九四五年（昭和二〇）六月二十七日（二画）

必ず復仇

故郷に誓ふ沖繩の疎開児

熊本県下に疎開してゐる沖繩の学童たちは南の風薫るばせをの国を忘れる時はない、そこに雄々しく戦ふ父や母や姉のおもかげをしのんで復仇の一念に燃え学業の余暇には食料増産の鋤を揮ふ彼等の姿こそいじらしくもまた健気なもの、極みであらう

一〇八 疎開学童用蚊帳を各町村に供出割当―東伯郡―

一九四五年（昭和二〇）六月二十七日（二画）

疎開児童へ早く蚊帳を

東伯地方事務所では郡内の集団疎開学童宿舍用かや二百帳を七月五日までに必ず宿舍へ届けるため各町村へ供出割当をしたのかやは借り賃を支給ひ夏が終れば返却されるので一日も早く子供たちのために供出完遂を望んでゐる

一〇九 本山第一・二国民学校の疎開―八頭郡―

## 八頭郡への疎開児

一九四五年（昭和二〇）七月六日（2画）

兵庫県武庫郡本山第一、第二国民学校学童二百五十八名はこんど次のとおり八頭郡各町村に疎開した

西郷十九名△佐治五十七名△用ヶ瀬四十五名△大三十七名△散岐百名

## 一一〇 疎開学童の再疎開

一九四五年（昭和二〇）七月一六日（2画）

## 疎開学童を再疎開

中小都市暴爆に対処

中小都市はじめ全国各地に対する敵の空襲激化に伴ひ、昨夏来実施されて来た学童の集団疎開は当然あらたなる進路と速かなる再出撃を要請されるにいたつた、もちろん全国的な敵の空襲に備へては建物疎開、老幼、病弱者の疎開も早急に実施されねばならず、文部省としては学童疎開をこれら「一般疎開の一□<sup>（頁2）</sup>」として軌道にのせるべく内務省と協議中であり、近くその細目通牒が発せられるが要旨は左のごとくである

## 疎開児童の再疎開

従来の疎開地は中小都市はもとよりその他の地域も戦局の推移に伴つて全くその条件をあらたにした、昨日の安全地帯は決して今日の安全を保障してはゐない、諸地域あるひは相当広範囲にわたつて全面的な待避を行はねばならぬ地区もあり、食糧の關係から移動を余儀なくされる地域も存在する、再疎開は既に重点的に遂行中で茨城、千葉、静岡などの各県ではすでに一名の学童も残存してゐない位になつてゐるし、過日空爆の対象となつた甲府市などは千四百中千三百名の再疎開を終了した□<sup>（頁2）</sup>であつたやうに、敵空襲に一步先んじた方策がとられてゐる、原則として中小都市へ疎開してゐる場合およびたとひ奥地でも安全地と思つたところに大集団をなしてゐる場合はさらに奥地へ分散本位に再疎開させる

## 未疎開中小都市の新疎開

今まで疎開の必要を認めなかつた人口二、三万程度の小都市をはじめ、山間の中都市も大体新構想による学童疎開を実施する、この場合は集団疎開を避け附近の農村、漁村への縁故疎開を協力に推奨するはずで、これは危険分散を兼ね食糧の不安をかもし出さぬ狙ひ、土に抛り山に抛つて幼い学童たちも不転の構へに入るのだ、いづれの場合も具体的措置は地方庁政府に□<sup>（頁2）</sup>ねられその教育方針は今回指示された新理念で進むことになつてゐる

## 一一一 集団疎開中の一、二年生の様子 倉吉町

一九四五年（昭和二〇）七月一七日（2画）

## はち切れる元気さ

戦火を越えた偉らさを見せて

## 疎開学童

この苛烈きはまる戦局下に純真な童心、挺身してゐるものに疎開学童のあることを我らは片ときも忘れてはならない、親とはなれ、故郷を去つて異郷の山河にひたむきな勉学をつゞける疎開学童たちこそその征戦をうけついで完遂するものであらう、「神戸の児童」約千五百名を受入れてゐる東伯郡にはこの四月から先例を破つて一、二年の可憐な児童もやつてきた、これまでは三年生以上の比較的高学年児童に限られてゐたのだが日増しに加はる戦局の変転はまだ乳房も恋しい七、八歳のいたいけな児童をも親許を離れさせるの結果となつたのだ、したがつてこの低学年児童を迎へた受人れ町村当局、学校など関係者の苦勞と関心は一通りではない、児童ら日々の生活の陰には遠く神戸の震災地でわが子らの安否を気づかふ父や母があるのを思ふからだ、関係者一同はかうした親心を心として温かく親がはりの面倒を見てゐるのだが、では四月以来ちようど三ヶ月を経たけふこのごろこれら一、二年生のいたいけな疎開児童はどんな生活の下に日々を送つてゐるか……倉吉町河原町の出雲屋旅館を訪ねてその生活の断片を見よう

この寮では、本店と別館に男女児童を別々に勉学させてゐる「兵警の銃器」のやうに入口の土間に立て並べた数十本のつり竿は、放課後の子供達の楽しい顔を見れば、受持の柳田訓導の案内で食堂をのぞけばちようど楽しい昼食中だ、

おいものまぜご飯、胡瓜のすもみ、沢庵にさいみそ、といふお献立だ、この館主は児童の食糧には特に意をそそぎ配給品のみにたよることなく、寮母、作業員らと力を合はせて山菜その他の利用の研究をつづけてゐるせいもあらう、子供達には揃つて皆いたつて元気で朗かだ、廊下で「おちさんこんにちば」の声と一緒に両側から可愛い一年生にとびつかれて思はず熱いものがグツと胸をつきあげ、一年生の受持岸本助教は語る

「早いものでこちらへきて三月になり児童の気もちも非常に落ちつき、地元の子供さんとも、始めの他人行儀の気もちもぬけこの頃ではけんくわまでやらかす程にとけあつてきました、寮では五年生のお姉さんたちと一緒にさせてゐますが、さすが戦災を体験してきただけに大変しつかりしてゐて、この頃では自分のことはほとんど自分達でやつてゐます」

昼食が終つた、そここの部屋では、はや小さい「ねいき」が聞える、かどみれ□<sup>(ほか)</sup>またお姉さんをひつぱりだして、すぐ横を流れる小鴨川へ竿をかつひで出かける「大公望」もあるなど「みんな元気」いっぱい、一部には生活環境の激変にきた早々はや心身を痛めたものもあつたが、いまではすつかりなれきつて「神戸のお父さんお母さん私たちのことは心配しないで戦災復興に生産増強に頑張つて下さい、私たちみんな戦ひに勝つまでは皆さま方の御親切な指導で日々を楽しく頑張つてゐます」と童心に必勝の気魄を満ちたぎらせてゐる

## 一一二 鳥取県内主要都市の建物・人員の徹底疎開

一九四五年（昭和二〇）八月一日（2面）

### 人員も徹底的に疎開

県では鳥取、米子、境、倉吉など主要都市部の建物並に人員の徹底的疎開を励行、敵襲に対する万全の備へを進めることになり、建物疎開は目下□□□□計画を進めて居り、その疎開跡地は防空道路、貯水槽、待避壕、戦時農園等に活用し、疎開木材はそれらの資料に転用する、つぎに人員疎開の対象となるものは

(一) 国民学校初等科児童 (二) 六十五才以上の老人 (三) 七才未満の幼児 (四) 妊婦（手帳を有する者、産婦がよく婦は除く） (五) 病人、不具、廃疾の者

このほかに、建物疎開で住家を除却された者、疎開区域に勤務してゐる者、企業

整備で転廃業した者など、都市に住む必要のない者は、この際すべて疎開を勧奨する意嚮である

県ではこれが趣旨徹底のため相当強硬な方針を以て臨むこととなつてゐる、これと共に必ず残留しなければならぬのは

一、客公庁の勤務員 二、軍需生産工場勤務員 三、交通、運輸、通信、電気、ガス、水道施設に従事する者 五、医師、歯科医師、薬剤師、保健婦、看護婦等の医療関係者 六、土木建築業者 七、報道に従事する者 八、金融関係者 九、警防団員、防空監視員等 十、食堂業者、浴場業者、理髪（はつ）業者、各種修繕業者、食糧配給関係従業者等

総動員業務又は戦時国民生活の確保に欠くことの出来は人は疎開は許されず防空並戦時業務に挺身すべく建物も人員も疎開の場合は必ず市町村の疎開指導所に「疎開転出申告書」を提出し証明書をもらつておかねばならぬ、また疎開の場合の縄などの荷造資材や荷馬車等は出来るだけ所轄警察署で世話をす等であるがなるべく自力でやる覚悟が必要である、ただ鉄道輸送は人も荷物も無賃輸送されるがかうして農村にかへつた人は徹底的に農村に腰をおちつけ食糧増産に挺身するやうとくに要望さる

## 一一三 鳥取、米子、境の学童疎開の断行

一九四五年（昭和二〇）八月三日（2面）

### 新学期迄に終了

県の方針飽まで「断

学童疎開

状態の急迫化とともに県では鳥取、米子、境学童の疎開を徹底的に断行する方針を樹て、七月関係方面に可及的速かに実施するやう通牒を發してをり、米子市では場所柄真ツ先きにこれに着手して強力に学童の縁故疎開を推進、現在約五割程度までこぎつけてをり、鳥取市ではせいぜい四割弱の程度とみられる、しかして残る学童は急遽集団疎開を実行する方針で指導してゐるが、鳥取市の如き国庫補助問題にしゃ口して全然積極的熱意を見せず、疎開先の選択等も「ない」といふを理由に挿々しく運ばないため県では市、町の意向如何に係らず内外の状況これ以上放置するを許さないものがあるため急きよ断行する方針を決定取敢ず直ちに授業停止を行つた上、新学期までに幾組もの小集団に分割の上安全地帯へ疎開せしめることになつた

一一四 疎開児童の蔬菜、保健問題について附添訓導から聴取 船岡村

一九四五年（昭和二〇）八月二三日（2面）

郷◇土◇戦◇線

八頭

因幡三郡疎開児童の蔬菜、保健問題を解決のため附添訓導から物を聴く会を十一日午前九時から船岡国民学校で開くが出席者は三郡地方事務所長のほか受入町村側から十数名である

一一五 鳥取市国民学校の集団疎開―吉村鳥取市長に聴く―

一九四五年（昭和二〇）八月二四日（2面）

人員疎開こそ大切

必勝疎開を吉村鳥取市長に聴く

鳥取市の児童は今日の緊迫した情勢下はまだ相変わらず従来のまゝ通学してゐる、授業停止等の措置も見えない、集団疎開のことを何時になつたら実現出来るかといった状況のやうだ、「これではいけない、市はどうしてゐる」といふ声がポツポツ起きてゐる、そこで児童と要疎開者の疎開の問題について吉村市長にたづねてみる

(問) 児童疎開はいつごろ完了するつもりか、縁故のない者に一日も早く集団疎開の要がある、県では既に指令したといつてゐるが……

(答) 県からは未だ確固たる方針を示されてゐない、時局下少々荒削りでもいゝから大号令を待つてゐるがさうも行かぬらしい、しかし市としては急速を要する問題なので、こゝ数日来各校長を集めて速やかに疎開を完了するやう急いでゐる、最初に強力で縁故疎開の歓奨をして、どうしても縁故のない児童は集団疎開を行ふ考へである

(問) 市は補助金の詳細がきまらないうちはこの肚だといふが

(答) 補助金などこの際問題ではない、一日も早くやることだ、県に金がなければ市でも犠牲を拂ふかく悟であるが、県からこのてんについても方針を示されてゐる

ない

(問) 児童の集団疎開は……

(答) 今日では大がかりの集団疎開は宿舍資材などの関係で困難である、一級単位くらゐの小集団に分けて適宜疎開し度い、それも困難なら二、三人宛農家に分宿するやう町村長に依頼したい

(問) 農村はもう飽和状態ではないか、それに食糧関係のてんもあらう

(答) やはり一億戦友愛の大きな慈悲心に期待したい

(問) 市内国民学校の授業停止はしないのか

(答) 県からは何も指示されてをらぬ、市が勝手に授業停止するわけにはゆかない、しかし市としては適宜授業を休んで疎開準備を大幅に進めてゐる

(問) 一般市民の要疎開者はいかに疎開させるつもりか

(答) これも一日を争ふ問題である、目下町会を中心に協力に歓奨してゐる、矢張り児童の場合と同様縁故のない向きは、農村への割当で行くより外あるまい、市の建物疎開も大切だが、人員疎開の方が一番大切と思ふ、建物疎開だけでも多額の「費用を要するに違ひないが、そのうち若干でも一般の人員疎開、児童疎開の方にふり向ければ、どんどん捗ることと思ふ、何によらず市は県の指令の通りやつてゐる

一一六 県外からの疎開児童は当分現状のまま

一九四五年（昭和二〇）八月二八日（2面）

縁故疎開児童は復帰

県外各都市から本県内への疎開児童達は時局の急転回に一方ならぬ驚きをもつたことであらうが、今すぐに郷里の戦災地に引揚げたところでは家のないもの、父母共に喪つてゐるものなどもあるのでこれらは一応戦災地の新秩序が整備し引揚げの態勢を迎へるまでなほ当分現在のままで新しいよいお友達、やさしい仮の父母達の膝（しつ）下で元気に生活し勉強する、また県内市街地から郡部奥地その他に縁故疎開してゐる児童は直ちに父母のもとに復帰するやう十六日県から手配が行はれた

一一七 疎開児童の様子

一九四五年（昭和二〇）八月二十九日（2面）

暑熱下、元気に励む疎開学童

泣いて戦争終結の御詔書を拝して以来疎開先の子供達は先生のお訓へに従って立派な日本の少国民になるんだと、暑熱とたゝかひつゝ日課に励んでゐるが、□国の苦難を敢然と負はねばならぬ私達は先づ身体を強□にと、今日は涼しい松林の蔭でお相撲を心身を鍛へてゐる  
(写真)

一一八 十二月までに疎開学童を復帰—文部省発表—

一九四五年（昭和二〇）九月三日（2面）

疎開学童達親元へ

第一次は来月早々に

終戦に伴ひ集団疎開学童はいかにするか、その措置について文部省では戦災その他の事情により復帰が困難であるとの見解からさき原則として本年度一ぱい集団疎開を継続する方針をとつたが今回□の原則を一擲、十二月までに疎開学童は家庭に復帰させることに決定廿一日この旨発表した

第一次は十月早々には懐しの親元に帰る、ただし戦災により孤児となつたもの、親元の行方不明のものあるひは家が焼失して帰つても生活に困るものについては戦災孤児集団合宿所を全国に約廿ヶ所適當のところに設定収容教育する、また帰つても家が焼けたり元の学校が焼けたり元の学校が焼けたりして元の学校に通学困難なものはその別の区役所で通学校を指定することになつてゐる  
なほ学童疎開に協力した地元町村に対しては文部大臣から近く感謝状を贈る

一一九 疎開学童の輸送

一九四五年（昭和二〇）九月三日（2面）

臨時列車運転

運輸省では疎開児童復帰の輸送計画を協議中であつたが、今月中に児童数、疎開先地名、荷物数などをまとめ十月三日まで関係者から運輸省に輸送を請求させることになつてゐる、出発の際と同業増結臨時列車の運転を行ふ

一二〇 疎開受け入れ協力者に文相の表彰状

一九四五年（昭和二〇）一〇月一〇日（2面）

神戸に帰る疎開学童

受入協力者に文相の表彰状

学童集団疎開は幾多の貴重な体験を積んで十五日を皮切に本月中旬ごろから解散を開始、年内には全学童が懐しの親の膝下に帰ることになつたが、学童疎開の挙げた成果の蔭に受入側の利害を無視しての献身的な後援と疎開側関係者の肉親も及ばぬ涙ぐましい努力が幾多あるので、文部省ではこれら篤行者中特に顕著なもの五十二名に対して個人感状を贈ることになり文部大臣の表彰状と初等教育奨励会からの金一封とがそれぞれ解散式当日伝達されることになつた、これら五十二名表彰者の大部分は受入側代表地元協力者たる町村長、住職、警察官などで疎開側としては施設経営の極めて卓抜だった校長をはじめ一年余を学童と寝食をともにして学童の訓育に努めた訓導、寮母、作業員などである、本県の表彰者氏名は左の通り

広富稔

（東伯郡三朝国民学校長）

田中幸実

（岩美郡岩井警察署長）

なほ本県が受入れてゐた集団疎開学童は全部神戸市内の各国民学校児童で近くそれぞれ親もとへ帰る筈である

一二一 集団疎開学童の引き揚げ

一九四五年（昭和二〇）一〇月二十四日（2面）

神戸の学童引揚

## 第二故郷鳥取へおさらば

戦争中神戸市の集団疎開学童達は昨年九月第二の故郷として山水の里、人情の温さに浸って愉しく明るく県下二十三市町村の寺院、民家、旅館等に勉強してきたが八頭郡内用ヶ瀬、大村、散岐、西郷、佐治の五ヶ町村に疎開してゐた二百七十七名の学童と十二名の教職員は既母校へ引あげを残り残る十八ヶ市町村に集団勉学中の学童二千五百七十七名と教職員二百十八名は二十七日と二十九日の両日、亘って「鳥取よさらば」と懐しの故郷神戸へ、久々に父母の膝下に帰り新しい勉学の道に進む

## 一一三 疎開学童の歓送式―御来屋町―

一九四五年（昭和二〇）一〇月二七日（2画）

甘藷を土産に

疎開学童ら神戸へ

西伯郡御来屋国民学校では二十五日集団疎開学童の歓送式を挙行、純真な童心にあふれた送る言葉□送られる言葉に、よい子たちのひとみをうるほし、余興の学芸会も児童の熱演で疎開児童は各村から持ち切れぬ程のサツマイモを土産に二十七日朝疎開期間病氣、事故もなく健やかに過した一年間の第二の故郷にさよならをするはず

なほ同町では同じ二十五日夜同町住吉座で復員兵士□員員の徴用挺身隊員への感謝慰安会を開催、幼稚園、国民学校児童、女子青年団員の劇、舞踊などの余興あり、この一夕終戦以来の積うつの雲を払って満座なごやかな一時をたのしむことが出来た

## 一一三 疎開学童の帰還式―東伯郡―

一九四五年（昭和二〇）一〇月二七日（2画）

東伯で帰還式

疎開学童に惜別

終戦に伴ひ懐しの親のふところに帰る東伯地方の集団疎開学童約千五百名は十一月初

旬頃より神戸市へ帰還の予定であるが、同郡地方事務所では別れに際し各校区別学童と共に「集団疎開学童帰還式」を挙行する

また受入れ町村附近の各民家でもこの帰還学童を各分散招待して御馳走をし別れを惜しむが同時に山陰の地を永遠に記念せしめるやうな何か心のこもったお土産を贈るやう腐心している

## 一一四 疎開学童の引揚―東伯郡―

一九四五年（昭和二〇）一〇月二十九日（2画）

疎開学童引揚

東伯郡内全部

「お父さんお母さん勝つまでは帰りません」と温かひ父母の膝下を離れて一昨年東伯郡各町村に集団疎開した神戸市池田、室内、川池、道場、中道各国民学校の学童約一千五百名の学童たちは一年二ヶ月にわたる第二の故郷で身心の錬磨と勉学にいそしんで来たが二十七日午前九時半上井駅発の臨時列車で帰神した。